

令和8年 第4回

四日市市教育委員会会議案

関係資料

日時 令和8年 3月23日 午前9時30分～

場所 四日市市役所 9階 教育委員会室

令和8年 第4回 教育委員会会議 議事

○議 案

議案第10号 四日市市立幼稚園管理規則の一部改正について…………… P 3/54

○報 告

令和8年2月定例月議会の経過について…………… P 5/54

本市におけるいじめ事案について…………… 別冊

## 議案第10号

四日市市立幼稚園管理規則の一部改正について

四日市市立幼稚園管理規則の一部を改正する規則を次のように定めるものとする。

令和8年3月23日提出

四日市市教育長 廣 瀬 琢 也

四日市市立幼稚園管理規則の一部を改正する規則

四日市市立幼稚園管理規則（平成13年教委規則第4号）の一部を次のように改正する。

改正後	
別表（12条関係）	
施設名	定員（人）
（略）	
四日市市立幼稚園型認定こども園内部幼稚園	53
四日市市立幼稚園型認定こども園羽津幼稚園	50
（略）	

改正前	
別表（12条関係）	
施設名	定員（人）
（略）	
四日市市立幼稚園型認定こども園内部幼稚園	53
四日市市立三重幼稚園	<u>70</u>
四日市市立幼稚園型認定こども園羽津幼稚園	50
（略）	

附 則

この規則は、令和8年4月1日から施行する。

（こども未来部 保育幼稚園課）

<議案参考資料>

**議案第10号 四日市市立幼稚園管理規則の一部改正について**

**1 改正の背景**

入園児童数の減少に対応するため、令和5年3月に定めた「四日市市認定こども園整備推進計画」に基づき、三重幼稚園が令和7年度末に閉園するため、四日市市立幼稚園管理規則の一部改正を行う。

**2 改正の内容**

別表（第12条関係）の施設名と定員から、四日市市立三重幼稚園を削除する。

**3 施行期日**

令和8年4月1日

令和8年2月市議会  
定例月議会  
本会議審議等内容報告

四日市市教育委員会

## 令和8年2月議会(本会議)の質問質疑に対する答弁要旨

## ◎代表質問

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
山口 智也 (公明党)	<p>○英語教育の推進について</p> <p>①新教育プログラムの柱である英語コミュニケーション能力の育成に向け、取組の充実を求める。先進事例のオンラインを活用したマンツーマンレッスン導入など、国際感覚を養うためのより効果的な手法の導入はどうか。</p>	<p>(市長)</p> <p>①グローバル化の中、英語で考えを伝えられる子どもの育成に注力している。他市のオンライン化に対し、本市はネイティブ指導員を小中学校に計22名配置し、直接の触れ合いを通じて、生きた英語でのやり取りを重視しているところである。子どもたちは授業や休み時間に彼らと交流することで、英語学習と異文化理解を同時に行う環境にある。中学校の英語指導員の10名は姉妹都市ロングビーチ市から迎えている。今後も実践的な環境を整え、国際社会で自分らしく活躍できる人材を育てる。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
	<p>○空き教室(余裕教室)の活用について</p> <p>①余裕教室の活用について、将来のビジョンも含めて教えていただきたい。</p>	<p>(市長)</p> <p>①学校施設は学校教育のための使用が基本である一方で、地域住民にとって身近な公共施設でもあるため、学校教育に支障がない範囲で地域の実情に応じて積極的に活用されることが望ましいと考えている。</p> <p>本市では、学校施設全体の教室から学校教育活動に必要な教室を除いた教室を余裕教室としており、「四日市市 市立小中学校における余裕教室等活用方針」及び「余裕教室等活用におけるガイドライン」に基づき、校舎や学校敷地の一部を学童保育所等に活用いただいている。</p> <p>余裕教室がない場合は、学校施設開放事業の利用団体登録を行っての会議室等の利用など、活用可能な教室等を利用いただいている。</p> <p>現在でも様々なかたちで利用いただいております。今後も学びと交流の場としての学校施設の活用を進めていく。</p>
<p>田中 徹 (市民目線の会)</p>	<p>○給食無償化について～中学生はどうなるのか</p> <p>①国において小学校給食の無償化が決定したが、中学校給食の無償化について市はどのような方針を持っているのか。</p>	<p>(市長)</p> <p>①本市では令和5年度から物価高騰対策として物価上昇分を公費で負担し、保護者の負担を増やすことなく給食を提供してきた。令和8年度の給食費について、小学校は国の方針を踏まえ交付金が交付されることになったが、国が示す基準額では本市の給食に必要な食材料費を賄うことができないため、基準額を超える部分を保護者から徴収することなく公費で負担することにより完全無償化とすることとした。中学校給食については国からの支援がないため生徒1人当たり月額6,000円の給食費のうち1,100円を公費で負担することにより給食費を一部無償化とする。国の通知では小学校の制度開始後に検証し、課題の整理を行い検討するとされており、実施時期についても明示されていないため、今後の国の動向を注視し検討を進めていく必要がある。中学校給食費の負担軽減については教育施策の全体像を踏まえ総合的に判断していく必要があると考えている。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
川村 幸康 (政友クラブ)	<p>○新図書館等拠点施設のあり方と運用について</p> <p>①中心市街地に立派な建物を建てるだけでは、遠方の方は利用できない。建物(ハード)はもとより、市民に本を供給できる機能(ソフト)も重要である。来館が難しい市民への対応として、地区市民センターや小中学校で図書の受け渡しを行うなどのサービスを実施できないか、図書館サービスのあり方について伺う。</p>	<p>(市長)</p> <p>①図書館のアウトリーチサービスとして、移動図書館車により巡回を行う「自動車文庫」や、「よっかいち電子図書館」などを行っている。また、あさけプラザ図書館や楠交流会館図書室と連携し、貸出等のサービスを提供しているほか、近鉄四日市駅高架下の市民窓口サービスセンター内に図書返却ポストを設置しており、来館が困難な方が利用できる環境づくりに、現在も取り組んでいる。地区市民センターや小中学校と連携してのサービス実施には、輸送方法やスペース、人員配置などの課題があるため、引き続き、他市事例の情報収集を行い、活用可能な事例について検討する。</p>
後藤 純子 (フューチャー四日市)	<p>○学校給食について</p> <p>①小学校給食無償化の実施にあたり、給食の質を落とすことなく継続できるのか。また、中学校給食の無償化の実施についてはどうか。</p> <p>②食育の取組状況及びその取組について、子ども達はどのように捉えているのか。また、学校給食における残渣と、中学校給食の開始前後の中学生の昼食摂取量の変化はどうか。</p> <p>③感染症により学級閉鎖等発生時の給食の調理について、どのような対応をしているのか。また、ごみの減量に関連した学校給食における取組はどうか。三重県が実施している体験授業や出前授業、モデル事業の取組を本市でも実施してはどうか。</p>	<p>(市長)</p> <p>①小学校給食については国からの交付金の不足分を市が公費負担し、食材の選定や献立の組み合わせ等を工夫しながら、これまでどおりの栄養バランスや量を保った給食を実施していく。中学校給食については、保護者負担増とならないよう引き続き物価上昇分を市が負担し、一部無償化とする。</p> <p>②小中学校それぞれ在籍の栄養教諭等が在籍校、担当校への給食時間の訪問と給食指導、食に関する指導を進めている。中学校では給食実施前はデリバリー給食や家庭からの弁当等、昼食形態が様々であったが、食缶方式の給食の導入により個々に適した量を提供できるようになった。給食の残渣については、特定の献立や学校について抽出で計量することにより、よりよい献立の組み合わせの検討や給食指導に活かしている。 これらの取組が給食残渣の削減につながるとともに子ども達の食への関心を高めている。</p> <p>③感染症による学級閉鎖等発生時の給食の調理対応については、可能な限り製造中止を依頼し、食品ロスのないよう対応している。食育においても、中学校でのSDGsにつながる取組アイデアを生徒から募集し、給食メニューに採用したり、小学校4年生を対象に、ごみ収集車を用いた出前講座を実施する等、食品ロス削減をはじめ、ごみ減量など環境にかかわる内容の指導を実施している。今後も出前講座等を通じて3Rをはじめ食品ロス削減について啓発を行っていく。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>谷口 周司 (新風創志会)</p>	<p>○学校環境について ①教員、子どもの逮捕事案が発生する状況で、本市の教育環境は安心・安全なのか。 教員中心の体制では限界があり、教員の負担軽減を進めるためにも、教員免許を持たない人が学校現場で活躍できる環境を整える必要があるのではないのか。</p>	<p>(市長) ①ご指摘の事案については大変重く受け止めており、安心して学校に通えるよう教職員が子どもたちと向き合える環境を整えることが重要であり、スクールカウンセラー等多様な専門人材を積極的に配置し「チーム学校」の施策を進めている。 具体的には県のスクールサポートスタッフの配置に加え、市独自で学校業務アシスタントを全校に配置したり、スクールカウンセラー等については県による配置と同数を市独自に追加配置し、人員拡充を図るなど、他市と比べ手厚い体制である。また、学校だけで解決困難な事例に対して、四日市市行政型学校ADRが当事者間に入り解決を図る手続きを活用している。専門人材の配置以外にも、学校運営に地域住民や保護者、学校ボランティア等多くの皆様に協力いただき、子どもたちが安心して通える体制づくりを進めている。併せて、教職員が心身ともに健康でやりがいをもって働くことができる環境を整えるための取組を進めていく。</p>

## 令和8年2月議会(本会議)の質問質疑に対する答弁要旨

## ◎一般質問

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
	<p><b>○公教育改革について 教員体制の拡充</b> ①第5次教育ビジョン策定に向け、探究的な学びの実現など教育の質を高めるためには教員体制の充実が重要であるが見解を伺う。</p>	<p>(教育長) ①本市では市独自に「よっかいち任用講師」を設け、小学校1年生、中学校1年生では30人学級を実現し、きめ細かで丁寧な指導を行う環境を整えてきたが、近年全国的に教員不足が深刻化し、令和5年度以降は対象校への配置が困難な状況となっている。鎌倉市と同様の市費負担教員制度を導入するには多くの課題があり慎重に検討していく必要があるが、本市では正規教員以外にも元教諭が常勤講師や非常勤講師として勤務し、豊富な経験を活かし指導にあたっている。また、教員免許の有無に関わらず専門人材を積極的に配置する「チーム学校」の推進や、コミュニティスクールを活用した地域住民や保護者の参画等の取組により探究的な学びがより深まる環境づくりに繋げている。 さらに今年度からは新たにキャリアチャレンジセミナーを開催し、人材の発掘に努めている。教員不足は依然として厳しい環境に置かれているが、地域や関係機関と連携し教育を支える人員体制の強化・充実に取り組んでいく。</p>
中川 雅晶 (公明党)	<p><b>○公教育改革について 社会に開かれた教育課程・官民連携の拡充</b> ①市内外の企業等との連携強化を図る取組はどのようになっているのか。</p> <p>②市内の小中学校が特色ある取組を進めるために、鎌倉市の「スクールコラボファンド」のような資金調達方法を導入してはどうか。</p>	<p>(教育長) ①本市では、高度なものづくり産業が集積する都市の強みを生かし、平成19年度から企業連携を開始した。当初の9社から令和7年度には28社まで拡大し、現在は理科のみならず、社会科、家庭科、技術科など幅広い教科で「出前授業」や「社会見学」を展開している。企業の専門性に触れることは、教科の学びと実社会のつながりを実感させ、生徒が主体的に課題解決に取り組む上で極めて有意義であり、今後は、これまで以上に連携を密にして、未来を担う人材の育成につながる取組を企業とともに創出し、児童生徒の探究的な学びを実現できるよう推進する。</p> <p>②本市では各校の「学校づくりビジョン」に基づき、学校の特色ある取組を学校づくりビジョン推進事業で実現している。四日市市ならではの企業連携や豊富な地域資源を有効活用する教育環境を生かし、今後さらに児童生徒が実社会の課題に向き合いながら学ぶ、探究的な学びを一層推進する。併せて、官民連携による新たな学習環境づくりなどについても調査研究を行っていく。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>中川 雅晶 (公明党)</p>	<p>○公教育改革について フリースクール等との連携強化・支援策 ①「四日市市フリースクール等民間施設・団体との連携に係る調査」の結果、まとめ・考察の報告を受け、この先の本市の方向性について聞きたい。</p>	<p>(教育長) ①認証制度の導入は、現時点では難しいと考える。 連携のあり方については、「フリースクール等民間施設・団体連絡会」への参加基準を明確に示すことで、本市と民間施設・団体の双方が信頼できる関係を強めるとともに、その信頼関係のもとで対話を重ね、共に協働して取り組んでいく。 民間施設・団体への経済的支援については、県が担うのが適切である。他方、家庭への経済的支援については、令和6年度から始まった県の施策の実績や効果を注視する。 庁内連携については、庁内の各部局や関係機関との連携をさらに強化し、包括的な支援体制を構築していくことが重要だと考える。</p>
<p>森 智子 (公明党)</p>	<p>○インクルーシブ教育の推進を～副次的な籍の導入について～ ①居住地校交流・学校間交流・副籍モデル校において交流及び共同学習を行ってきた現状はどうか。  ②モデル校における交流及び共同学習で見えてきた課題について。  ③令和8年度からの本格導入に向けてどう進めていくのか。</p>	<p>(教育長) ①特別支援学校の児童生徒が地域の小中学校と交流し、地域とのつながりを深めるため、居住地校交流、学校間交流、副籍モデル校での交流を実施している。副籍制度は令和8年度から本格実施予定である。副籍での交流を通じて、地域とのつながりを実感できる事例が寄せられている。  ②見えてきた課題は、本人保護者の意向を最優先とした丁寧な合意形成、交流に伴う負担のコントロールと継続性の確保、共に育ち学びの場づくりに向けての十分な協議の三点である。  ③令和8年度から副籍制度を全学年に拡大し、全ての小中学校で実施する。環境整備と多様な交流方法で日常的な交流を促進し、インクルーシブ教育の理念に基づく共に育つ場づくりを推進する。本人・保護者の思いを大切に、地域でのつながりを深める。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
森 智子 (公明党)	<p>○朝の小1の壁問題について</p> <p>①朝の小1の壁問題に対する本市の見解についてどうか。</p>	<p>(教育長)</p> <p>①各小学校における児童の登校の状況については、学校や地域の実情に応じて異なっており、本年度も登校班による集団登校や個別に登校をしている学校がある。集団登校実施校では校舎の開錠時刻に合わせて登校できるよう登校班ごとに集合時刻等を定めており、個別登校の学校においても保護者が登校時刻を調整し、校舎の開錠時刻に沿った登校となるよう協力いただいている。また、児童の安全確保の観点から、教職員の勤務開始時刻より前の出勤が始まる午前8時を目途に校舎開錠を行っている学校がほとんどである。本市においては、保護者や地域の協力もあり児童が学校敷地外で校門が開くのを待つという状況はないと認識している。</p>
上 麻理 (政友クラブ)	<p>○小学校下校時の熱中症対策 命の危険を感じる気温の上昇、子ども達を守るために何が出来るか</p> <p>①昨今の猛暑をうけ、熱中症などの体調不良で下校時に問題があったケースの報告及び件数は把握しているか。</p> <p>②猛暑の中での下校時において現時点でどのような対策をしているのか。</p> <p>③今までにないような安全対策を、他自治体の先進事例を研究し取り入れてほしい。(意見)</p>	<p>(副教育長)</p> <p>①下校時における熱中症疑いの件数については、下校後に家庭から学校に連絡が入らない場合があることから把握していない。救急搬送されるケースについては消防から報告があるが、過去5年間において報告はなかった。熱中症と考えられる症状の発症は、小学校では体育など運動中が多くを占めるが、猛暑の中、地域によっては長距離を歩くこととなる登下校中も十分留意する必要があると認識している。</p> <p>②熱中症の未然防止のため「学校における熱中症予防対策マニュアル」を策定し、毎年見直しを行っており、各校での適切な対応を進めるとともに、下校時の対策についても明記している。例として下校前に水分補給を促したり、帽子の着用や日傘の使用により直射日光から守るよう指導している。また、暑さ指数35以上の数値が計測された場合には下校時刻をずらしたり、保護者に対して緊急時引き渡しを実施する等、下校時の安全確保について学校に通知している。今後も引き続き登下校時も含め、児童が自ら体調管理ができるよう発達段階を踏まえた適切な指導を実施し、対策を進めていく。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>上 麻里 (政友クラブ)</p>	<p>④熱中症対策としての登下校時の自家用車送迎について、市として具体的な指示を出しているのか、あるいは各校の判断に委ねているのか、現状を問う。</p> <p>⑤内部東小校区は道幅が広く、車の待機場所の確保が可能。内部小校区は道幅が狭く、送迎時の安全確保に課題がある。校区ごとの地理的条件が異なることを踏まえ、一律の対応ではなく、各校が保護者と協議を重ね、児童の安全な登下校について検討していただきたい。(意見)</p> <p>⑥登下校におけるスクールバスについての考え。</p>	<p>④登下校のあり方は、基本的には各家庭の判断に委ねられている。 自家用車の送迎は、学校周辺の交通状況や待機場所の有無など、環境が個々に異なるため、各学校の判断としている。 引き続き学校と保護者が密に連携し、児童生徒の安全確保を最優先に対応していく。</p> <p>⑥本市では学校規模等適正化に伴う市立小学校の統合、通学区の変更による通学環境の急激な変更に対処するため、「四日市市スクールシャトルバス運行基準」を定めている。 この基準は通学路の整備等が終了するまでの一時的な措置として、スクールバス運行について設定している。 この基準が適用された例としては、三浜小学校・旧塩浜小学校の統合時に約2年間にわたって運行した実績がある。 本市の「スクールシャトルバス運行基準」と照らし合わせると、熱中症対策としてのスクールバスの導入は難しいと考えている。 なお、近隣市町においても、熱中症対策を理由にスクールバスの運行事例はない。 児童の登下校の安全については、環境面の整備だけでなく、通学路の安全点検や安全指導を行っている。 今後も引き続き、児童の安全な通学に努めていく。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>荻須 智之 (政友クラブ)</p>	<p>○四日市市奨学金と開学予定大学の授業料について ①四日市市奨学金の支給状況はどうか。</p> <p>②貸与分の返還免除要件である市内居住によって就職先が限られてしまうことを懸念するがどうか。</p>	<p>(副教育長) ①今年度は高校等135名、大学等111名の計246名に対し、月額奨学金の支給を行っている。 また、入学支度金は令和6年度予算で令和7年度新入学生へ支給した実績として、高校等32名、大学等37名の計69名に対し、支給を行った。</p> <p>②本市は全国有数の産業都市であり、県下最大都市でもあることから、市内には多数の就職先がある。 さらに交通の便もよく、近隣市町、名古屋市なども十分通勤圏内になっており、就職先が限られるといった状況には無いものと考えている。</p>
<p>伊世 利子 (フューチャー 四日市)</p>	<p>○自分らしく生きるために尊厳は守られているのか？ ①いのちの授業の現状と、今後の取り組みについての考えはどのようになっているか。</p>	<p>(教育長) ①高校進学後の環境変化等により悩みを抱える生徒が増加する現状を、小中学校段階から自他の命を大切にすることを育むべき喫緊の課題と捉え、本市では保健体育科や道徳での指導に加え、専門家による出前授業で命の尊さを伝えてきたが、今後は「性に関する指導ガイドブック」を「いのち」という広い概念で捉え直し改訂することで、自分や相手を尊重し思いやりを持って生きる力を養う教育を一層強化・推進していく。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>加納 康樹 (フューチャー 四日市)</p>	<p>○「生成AI、依存する？活用する？規制する？」～教育現場と市役所内における現状と課題について～</p> <p>①子どもたちが書いた宿題として提出をした読書感想文が生成AIによって作られたものか否かは、見破ることができるものなのか。</p> <p>②小学生の生成AI認知率、日常的に生成AIに触れている子どもの割合は、四日市市内の児童においてはどの程度か。</p> <p>③教育委員会としては、子どもたちへの生成AIの活用・指導の実態、また授業などにおける活用についての指針はあるのか。</p> <p>④家庭でのルール作りについても、教育委員会として指針を示すとまで言わないものの、アドバイス・助言をする必要があるのではないか。</p> <p>⑤小学校1年生から6年生までの幅で、指導の仕方に差があるのか。</p> <p>⑥教育長が教壇に立っていたとして、見破る自信はあるか。</p>	<p>(教育長)</p> <p>①教員が児童生徒の個性や対話を通じて見抜くことは不可能ではない。生成AIに頼り切るのではなく、自分の考えを深める力を育むように指導することが安易な利用を防ぐことにつながると思う。</p> <p>②検索エンジン等を通じてほぼ全ての児童が日常的にAI技術に接しているのが実態である。本市では、AIの回答を鵜呑みにせず、情報の真偽を考察する力、主体的に選択する力を育むことが重要である。</p> <p>③国のガイドラインを指針とし、令和8年4月の端末更新に合わせて生成AIの活用を開始する。小学校では発達段階に応じた慎重な運用を図りつつ、情報活用能力体系表に基づき系統的に指導する。生成AIの性質を正しく理解した上で、生成AIを「学びのサポーター」として効果的に利活用していく。</p> <p>④具体的な事例を含めた保護者向けの啓発資料を作成して周知する。生成AIが子どもたちの学びのサポーターになるよう、保護者と認識を共にしながら活用を進めていく。</p> <p>⑤情報活用能力体系表、情報活用能力チェックリストに、発達段階に応じて指導内容を整理している。ここに生成AIの指導内容を追記する。</p> <p>⑥普段からノート等を見ていれば、表現の違いを感じることはある。その内容を、叱るのではなく、表現についてほめながら対話することで、よりよい使い方ができるよう指導する。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>諸岡 覚 (新風創志会)</p>	<p><b>○卒業式における国歌斉唱について</b>  <b>①児童生徒に対する指導についてはどのようなになっているか。</b></p> <p><b>②歌っているのか。歌っていないのか。</b></p> <p><b>③十数年前にも質問をしている。当時の教育長は、「各現場において調べていく」と言った。書面上の調査以上のことをしていくべきと共通理解があった。そのうえでどうやって調べたか。</b></p> <p><b>④調査をしていくといったことは虚偽ということか。今後どうしていくのか。</b></p> <p><b>⑤ビデオや録音による調査はするのか。</b></p> <p><b>⑥今、どこの学校でもビデオ機器があるのに、なぜできないのか。</b></p> <p><b>⑦録音録画は、明日でもできる。なぜやりたくないのか。</b></p> <p><b>⑧今年は、録画録音をするのか。</b></p>	<p>(教育長)</p> <p>①学習指導要領において国歌斉唱の扱いは、入学式や卒業式などにおいて、国旗を掲揚するとともに、国歌を斉唱するとなっている。教育委員会では各校へ文書等で周知を行い、令和4年度以降、市内全小中学校で斉唱が実施されていることを確認している。児童生徒は、式典の厳粛な雰囲気に合わせて、様々な表現で斉唱に臨んでいるものと認識している。</p> <p>②卒業式後にも調査を行っており、歌っている・指導していると回答している。私が行かせていただいているところは、歌っている。</p> <p>③告辞を代読した者に確認していきたい。</p> <p>④書面で調査は行っている。告辞の代読に行った者が確認する。</p> <p>⑤今年度については、参加した者が確認する。</p> <p>⑥各学校の環境が整っているかの確認がとれていない。</p> <p>⑦歌っているものと認識している。レコードを確認する。</p> <p>⑧そういったことを担当課に指示する。</p>
<p>諸岡 覚 (新風創志会)</p>	<p><b>○オーガニックなるものについて</b>  <b>①近年、一部でオーガニック食材を推す声があり、学校給食にオーガニック食材の使用という声があるが見解はどうか。</b></p>	<p>(副教育長)</p> <p>①基本的に市場で一般的に流通している慣行栽培によって生産された農産物を使用しており、安全性については必要に応じて衛生検査書等の提出を求めており、国の基準に則り適切に栽培されているか確認できる体制を整えている。</p> <p>食材の選定にあたっては、限られた給食費の中で購入できる価格である必要があり、また、限られた時間内に大量の食材を調理できるようサイズや規格も揃えることが求められる。さらに、毎日約24,000食を提供するには必要な量を安定的に供給できることが重要であり、現状のオーガニック農産物ではこれらの条件を満たすことができず、使用は難しいと考える。</p>

## 令和8年2月議会 付託議案の質問質疑に対する答弁要旨

- ◎議案第138号 工事請負契約の締結について～中央小学校特別教室棟長寿命化改修ほか工事～
- ◎議案第139号 工事請負契約の締結について～三重北小学校教室棟長寿命化改修工事(2期工事)～
- ◎議案第140号 工事請負契約の締結について～県小学校南校舎長寿命化改修工事(2期工事)～
- ◎議案第141号 工事請負契約の締結について～羽津北小学校南校舎長寿命化改修工事(2期工事)～
- ◎議案第142号 工事請負契約の締結について～浜田小学校管理教室棟保全改修工事(1期工事)～
- ◎議案第143号 工事請負契約の締結について～中部中学校特別教室棟長寿命化改修工事～
- ◎議案第144号 工事請負契約の締結について～桜中学校管理教室棟長寿命化改修工事(2期工事)～
- ◎議案第145号 工事請負契約の締結について～楠中学校管理教室棟大規模改修工事(2期工事)～

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>中川 雅晶 (公明党)</p>	<p>①これらの工事は、計画に則って行われているのか。</p> <p>②同じ会社が2件落札しているが、よいのか。</p>	<p>(教育施設課長)</p> <p>①学校施設長寿命化計画に基づき行っている。</p> <p>②入札参加の要件を満たしており問題ない。</p>

## 令和8年2月議会(予算常任委員会教育民生分科会)の質問質疑に対する答弁要旨

## ◎令和8年度当初予算

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
中川 雅晶 (公明党)	<p><b>○学校規模等適正化事業について</b></p> <p>①小規模校アシスト事業について、1校当たり10万円の予算では足りないという声は聞いていないのか。</p> <p>②各校で地域に根付いた取組が多くみられ、確かにその側面も重要だが、子どもたちの視野を地域外に広げるような取組も必要なのではないか。</p> <p>③本事業で4校が実施している地域と連携する取組は、本来は四日市版コミュニティスクールで実施してもよい内容であり、小規模校だけでなく大規模校、中規模校にも広げていく必要があると考えるが、小規模校アシスト事業として別予算で実施する意味はあるのか。</p> <p>④各校における取組内容は子どもたちの意見を基にしたテーマで実施しているのか。</p> <p>⑤小規模校が特に課題とする同世代との交流を促進するためには、地域に根差した取組だけでは、目的に対して遠回りしているように感じる。10年前の開始時と比べ、ICT環境の整備等により状況が変化しており、今後の小規模校へのサポートのあり方をどう考えているか。</p> <p>⑥予算を十分に確保しながら官民連携や企業・団体等からの協力なども視野に入れ、全校への事業の拡充を検討すべきではないか。</p>	<p>(教育総務課長)</p> <p>①現在のところ、そのような声は聞いていない。</p> <p>②地域の世代間交流等は生徒からも好評であり、広い視点を持ち、多様な考え方に触れる機会になっている。その上で、別の事業等も含めて今後検討していく必要があると考える。</p> <p>③各校の特色ある取組は、学校づくりビジョン推進事業において、規模の大小に関わらず実施している。一方、本事業は、小規模校としての課題を緩和することを目的に取り組んでいるものである。</p> <p>(教育監)</p> <p>④各校の現在の取組内容は、子どもたちが総合学習等の授業の中で自らやってみたいと意見を出して決めた学習の一環である。</p> <p>⑤開始当時は、他校と交流するためのバス代等の経費にあてることを念頭に始まった。現在はICT環境が整い、小規模がスケールメリットにもなりうることから、今後の小規模校へのアシストの進め方についてはさらに検討していきたい。</p> <p>(教育長)</p> <p>⑥国において企業と学校教育を繋ぐコーディネーターの制度化に向けた研究会が設置されている。そうした流れの中で、企業のリソースを、どうやって教育現場に生かすかについては、本市としても注視し研究を進めていきたい。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
山田 知美 (新風創志会)	<p><b>○四日市市奨学金について</b></p> <p>①今回25名が不採用となったが、これまでのように物価高騰対策による補正措置があれば採用となっていたのか。それとも他に不採用となる要因があったのか。</p> <p>②不採用となったことで進学を諦めた事例がないかの調査は行っていないか。</p> <p>③申請が難しいケースもあると思うが、支援機関がサポートして申請するような例はあるか。</p> <p>④採用の上限もあるので積極的に周知するものではないと思う反面、全ての保護者に伝えるべき情報とも考えるが、現在どのように周知を行っているか。</p> <p>⑤働いている子育て世代はあまり広報を見ないだろうし、若い世代への伝え方を研究していただきたい。(意見)</p> <p>⑥通信制高校やフリースクールは高校無償化や奨学金制度の対象となるか。</p>	<p>(教育総務課長)</p> <p>①今回実施する市の物価高騰対策は事業者向けのほか、個人向けはすべての市民を対象とした給付金とプレミアム付きデジタル商品券事業となった。</p> <p>四日市市奨学金については定員50名で募集し、昨年と同様の基準で家計が厳しい順に採用を行った結果、25名が不採用となった。</p> <p>②そのような調査は行っていない。</p> <p>(教育総務課総務GL)</p> <p>③学校の進路指導での説明や担当教員からの確認を経て、申請につながるケースはある。また過去には里親世帯の子どもが申請したいということで児童相談所から相談があった例もある。</p> <p>(教育総務課長)</p> <p>④広報よっかいちへの記事掲載のほか、募集チラシ・ポスターを中学・高校等へ送付し、周知、案内を依頼している。また市及び教育委員会HPにも掲載を行っている。</p> <p>(教育総務課総務GL)</p> <p>⑥通信制高校は学校教育法に定められたものであり、高校無償化や奨学金の対象となるが、フリースクールは対象とならない。</p>
田中 徹 (市民目線の会)	<p>①「学校保護者連絡アプリ」での制度周知は行っていないか。</p> <p>②大切な情報であり、プッシュ型の情報提供を検討してほしい。(意見)</p>	<p>(教育総務課総務GL)</p> <p>①「学校保護者連絡アプリ」を活用した一律の発信は行っていない。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>中川 雅晶 (公明党)</p>	<p>○四日市市奨学金について</p> <p>①応募状況により、年度ごとに採用となる基準が変わることがあると思う。基準を明確にした方が不公平感も減るのではないかと考えるがどうか。</p> <p>②高校無償化、大学も第3子以降無償化となっているが各25人の定員はそのままで良いのか。</p> <p>③他の予算を削ってでも奨学金に充ててほしいという思いもあるが、一定の線引きをしなければ際限がないということも理解する。不採用となった場合も再度応募が可能であることが伝わるよう努めてもらいたい。(意見)</p> <p>④大学設置に関連しても奨学金が話題に出ている。奨学金は未来への投資であり、現在の制度は将来戻ってきてもらうという要素もある。今後も維持、発展する制度として、財政経営部や政策推進部に予算をつけてもらえるような内容を委員長報告に盛り込んでもらいたい。(意見)</p>	<p>(教育総務課総務GL)</p> <p>①年度により採用となる基準は異なってくるが、在学中でも応募は可能であるため、不採用となった翌年に再度応募し、採用となる可能性がある。</p> <p>②令和8年度から高校授業料無償化がさらに拡充されるが、学用品や通学、部活等に関する費用は引き続き家計の負担となる。今後も国の支援制度等状況を見ながら定員を検討していく。</p>
<p>山田 知美 (新風創志会)</p>	<p>○学校教育課への産業保健師の配置について</p> <p>①教員不足の状況はどうか。</p> <p>②教職員の悩みの相談先がないと聞いた。悩みや課題について相談でき、解決の糸口が見えるような体制が必要であるため環境整備に努めてほしい。</p>	<p>(学校教育課長)</p> <p>①2月1日時点では小学校12名、中学校8名であり、これは正規職員の病休、産育休の代替講師の補充が困難となっているためである。</p> <p>②令和8年度からは教職員に関する業務量管理・健康確保の措置に関する国の方針に基づき、市でも計画を定め、当初予算でも上程した産業保健師の配置を実施し、保健師との面談の中で相談できる体制を整えていく。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>中川 雅晶 (公明党)</p>	<p>○学校教育課への産業保健師の配置について</p> <p>①新たに1名配置ということだが目的と運用方法はどのようなものか。</p> <p>②国の法令で決まっており、法令違反であったことから配置に至ったのか。</p> <p>③1名で市内小中学校の教職員の健康管理は担えるのか。</p> <p>④市内全体の学校の健康管理の推進を図るイメージであるが、将来的にブロック別を実施するなど発展的に考えているか。</p> <p>⑤今回新たに配置することについて相談方法など丁寧な周知をすべきと考えるがどうか。</p> <p>⑥ストレスを感じるのはベテランも同様であるため広く周知することを徹底し、また体制の強化について考えてほしい。(意見)</p> <p>⑦養護教諭は少数職種のため相談先の問題や休んだ際の代替職員についての課題がある。今回の保健師配置によって相談先として養護教諭との連携体制を組んだほうがよいと考える。</p>	<p>(学校教育課長)</p> <p>①国が示した方針の中で教職員の健康確保に努めることとなっており、その対策の一つとして配置し、心身不調の未然防止等、教職員の健康確保を図るために配置する。メンタルヘルス以外にも健康診断結果からの助言や、初任者面談の実施により心身の不調を事前に把握し改善することで、教職員の健康確保を行う。また、病休復帰者に対する復職面談や復帰後の支援に対する活用も行う。</p> <p>②産業保健師の配置は法令で決まっていない。教職員の業務量管理と健康確保に努めるため配置に至った。</p> <p>③県費職員に関しては三重県の臨床心理士への相談が可能であり、そのような制度にも任せながら運用していく。</p> <p>④他自治体の先進事例では増員したと聞いている。今後の状況をみながら慎重に検討していきたい。</p> <p>⑤制度の紹介も含めて初任者に対する予防面談を実施していく予定である。</p> <p>⑦養護教諭は法で定められた配置基準により配置されているが、加配による複数配置の学校もある。また、休んだ場合には巡回する形で対応できる非常勤の養護教諭も配置している。相談体制についても検討していく。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
中川 雅晶 (公明党)	<p>○新教育プログラム推進事業費(学校水泳民間委託プール施設活用事業)について</p> <p>①水泳民間委託全小学校で実施に向けて、指導員は確保できたのか。</p> <p>②いくつかの施設でやるのか。</p>	<p>(教育推進課長)</p> <p>①小学校全37校で実施となるが、今年度の21校も確実に運営できている。しっかりと連携をとって進めていく。</p> <p>②全部で6施設になる。</p>
竹野 兼主 (フューチャー四日市)	<p>①様々な地域から車で移動してくることになる。安全の徹底をお願いしたい。(意見)</p>	
中川 雅晶 (公明党)	<p>○新教育プログラム推進事業費(英語コミュニケーション能力向上)について</p> <p>①英語について、リアルなコミュニケーションが重要なのはわかるが、回数や小中でリアルなコミュニケーションとICTを通したコミュニケーションをすみ分けるなど必要なのではないか。どうミックスしていくか。 英語教育が今後さらに重要になってくるため、ICTを活用し、個別最適な学習に英語教育もシフトすることによって引き上げることが大切ではないか。</p> <p>②ICTを活用してネイティブに触れる、外国籍の方と生のコミュニケーションを体験するのも大切。英検IBAで自分の習熟度を個別に挙げていく、自分がどの位置にいるのかを確認するのも大切。 YEFのコマ数の少なさ、四日市の子どもたちの英語コミュニケーション能力のさらなる向上など、これからの英語教育を大きい視点で答えてほしい。</p>	<p>(教育推進課長)</p> <p>①市の特色として、YEF16名やHEFIによって生のコミュニケーションを通して、文化も含めて学ばせている。ICT機器、AIの技術は向上しているの、何が活用できるのかは日常的に考えている。代表質問でご示唆いただいたことについては、英語の授業づくりを考える上で参考にしていきたい。</p> <p>②ICTの活用が個別最適な学びの充実にもつながることを文部科学省も挙げており、今後様々な方向性を考えていく。</p>
上 麻里 (政友クラブ)	<p>①コミュニケーションする際に、文化を体験するということはあるのか。</p> <p>②ただ授業をするだけでなく、ハロウィンなどの文化を取り入れながら英語を学習することはあるのか。</p>	<p>(教育推進課長)</p> <p>①外国語において、背景にある文化に対する理解を深めることが学習指導要領に明記されている。</p> <p>②異文化に触れることについて、授業者が工夫している。</p> <p>(教育監)</p> <p>YEFが季節によって文化の香りがする活動を取り入れてくれる。生徒は、生きた英語を学んでいる。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
中川 雅晶 (公明党)	<p>○学びの一体化推進事業について</p> <p>①小規模校の運営および教員配置のあり方についてどのように考えるか。</p> <p>②配置に至らない小規模校について専科教員の共有という形でブロック制の巡回型で担当する方法はどうか。</p> <p>③県要望も一つだが小規模校では教員数が少ないため厳しい現状である。ぜひ検討いただきたい。(意見)</p>	<p>(教育推進課長)</p> <p>①クラス数が少なくなるほど、教員定数も少なくなる。そのため、小規模の方が教科担任制の時間割を組むのは難しい実態はある。しかし、小規模校であっても学力がつくように、しっかりと工夫して取り組んでいきたい。</p> <p>(学校教育課長)</p> <p>②特に中学校における技能系教科は時間数が少なく、県において複数校を兼務して非常勤を配置するケースもあるため、今後必要に応じて県へ要望していく。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>中川 雅晶 (公明党)</p>	<p>○四日市版コミュニティスクール推進事業「放課後の学習支援等」について</p> <p>①学校によって参加人数に偏りがあるのはなぜか。</p> <p>②CSは主体的にやっていくということが大切と認識しているが、なるべく参加してもらえるように、情報共有をしていくことが必要なのではないか。安定的な支援員の確保について、現状、勉強を教えているのか。</p> <p>③教員の免許持っているOBの方がいるようだが、そのような方は学習のサポートをするのか。</p> <p>④学習する場を提供するという意味での居場所ということか。</p> <p>⑤子どもにとっては、勉強教えてほしいというニーズはないのか。</p> <p>⑥支援員への研修、謝金などはどのようになっているのか。</p> <p>⑦支援員はベテランの方だけでなく、大学生とか教育職を選ぼうとしている方、塾の講師などは考えていないのか。</p> <p>⑧タブレットは活用しているのか。</p> <p>⑨継続的に発展的にするために、支援員のネットワークをつくるなど、いろんな方へお願いしやすい環境設定をすることが大切ではないか。見守る人、学習サポートする人、学生の活用など、様々なかたちがあってもよいのではないか。 今は自習型が基本ということだが、大人との対話型への学習支援に移っていくのはどうか。</p> <p>⑩子どもたちがいろいろな話を聞くことが重要。こういった空間があることで、自分の将来を描けるようになると思う。経年的に進めてほしい。(意見)</p>	<p>(教育推進課長)</p> <p>①三重平中は放課後に全校的に残れる人が残って実施しているが、その他の実施校は希望者のみが参加している。</p> <p>②支援員は、子どもの学習を見守るというのが基本である。</p> <p>③OBの方からは、踏み込んで教えてもらうこともあるが、教えなければいけないというかたちでお願いはしていない。学習の空間を居心地が良い場所にしていただくことが基本。</p> <p>④その通りである。加えて、地域の方が入っていただくことで、地域の方との交流の場にもなると考えている。</p> <p>⑤活動が広がっていけば、子どもの声を聞いて検討する。現在は、宿題をしっかりする習慣がついて助かるという声を聞いている。</p> <p>⑥研修の取り組みとしては、運営協議会の委員長を集めた委員長会において、三滝中の放課後の学習支援の取り組みの例を紹介した。謝礼については、1時間当たり1000円とし、各運営協議会からの報告に基づき支払う仕組みとなっている。</p> <p>⑦現在は、CSの委員や、CSから声をかけていただいた方を中心に広げている。</p> <p>⑧タブレットを活用している子どももいる。基本的には、それぞれが学習材を持ち寄っている。タブレットを使うなど一律の学習の進め方ではない。</p> <p>⑨いろいろな広がりについてご示唆いただいた。今後様子を見ながら見極めていく。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>山田 知美 (新風創志会)</p>	<p>○四日市版コミュニティスクール推進事業「放課後の学習支援等」について</p> <p>①小学校はなぜモデルなのか。令和8年度の4校の配分はどうなっているのか。</p> <p>②登録者数は運営協議会委員と重複されている方もいるのか。運営協議会委員の総数は何人くらいか。</p> <p>③全中学校区で開催できるようになれば良いと思う。関わってくれる方が増えれば回数も増やせるのではないか。(意見)</p>	<p>(教育推進課長)</p> <p>①小学校は放課後の下校の問題がある。小学生の行き帰りが心配。八郷西小は、校区がコンパクト。子どもたちの行き帰りの様子が見通せる会場を用意できるなど、良い条件が重なった。引き続き、中学校を中心としてやっていきたい。</p> <p>令和8年度は、中学校4校を拡大予定で、これからさらに話を詰めていく。</p> <p>②支援員と運営協議会委員を兼ねている方もいる。運営協議会委員は学校によって様々だが、8人～10人程度。</p>
<p>田中 徹 (市民目線の会)</p>	<p>①支援員の登録を増やすことが必要だと思う。コミュニティスクールだけでやるのは難しい。謝金はあらかじめ決めておき、しっかりと確保してほしい。支援員のみなさん思いがある。支援員に「教えて楽しい」と思ってほしい。人材バンクのようなかたちはつくれそうか。</p>	<p>(教育推進課長)</p> <p>①貴重なご意見として承りたい。今のところ人材バンクは考えてないが、今のところは地域の中で声をかけあって機能してほしいと考えている。支援員さんの人材が不足することもあるという認識は持っている。</p>
<p>上 麻里 (政友クラブ)</p>	<p>○部活動サポート事業(地域展開)について</p> <p>①保護者の負担に関わって、移動費の負担はどうか。</p> <p>②地域展開を進めるには、「近くの施設に行く」ということだけでなく、生徒一人ひとりが「自分に合った場所」を選択できる環境づくりが不可欠。「行きたい場所があるのに行けない」という状況が生じないようにするべきではないか。</p> <p>③自転車で移動することが多くなるだろう。移動の安全性など、地域、保護者と共にしっかりと進めてほしい。(意見)</p>	<p>(みんなのブカツ推進室長)</p> <p>①基本的には、それぞれの練習会場に行く時は、自分の在籍する学校の近くを想定している。本市の方針として、参加費は取らないかたちで、地域クラブの運営をしていく。公共交通機関の費用について予算をとる予定はない。しかし、本格的な展開が始まった時に、データをとって、移動費など何が課題となっているかを考えていく。</p> <p>②色々なパターンを踏まえ、課題を捉えながら進めている。子どもたちの意向調査の率直な意見も参考にしながら展開していく。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>中川 雅晶 (公明党)</p>	<p>○部活動サポート事業(地域展開)について</p> <p>①部活の地域展開について教育委員会からの情報のフィードバックがない。しっかりと学校との共有をしてもらいたい。</p> <p>②情報をLINEやHPで発信するなど、環境整備をして情報発信することが大切だと考えるがどうか。</p> <p>③これまでは陸上競技場などで活用していたが、会場について中学校を拠点にした理由は何か。</p> <p>④本格的にスポーツをしたい子どもがセレクションを受けに行くときや進学の時など、これまでは顧問が窓口をしていた。地域展開になると、そういった手続きはどうするのか。</p> <p>⑤システムづくりをしていってほしい。子どもの機会損失にならないようにしてほしい。(意見)</p>	<p>(みんなのブカツ推進室長)</p> <p>①種目の数、拠点にする学校など、ある程度整った時点で、学校に示していく予定であった。新入生保護者説明会や予備登校時などに、対象の児童への説明をしていく。また、学校の職員向けに説明をした学校もある。</p> <p>②情報発信は大切だと考えている。教育委員会のHPに部活動の特設のページを設けている。現在16種目を掲載し、情報を発信している。活動方針や場所等を掲載している。その他のクラブは、今後認定されたら載せていく。</p> <p>③今年度の拠点型は多くの中学校から集まってくるため、大きな施設で実施していた。もう一つは、部活動の意義を継承するという観点から、どこかの中学校を拠点にしてくださいと伝えている。陸上であれば陸上競技場を使った方がよい時は、主催団体の方で学校以外の施設も計画に入れてもらっている。</p> <p>④現在の学校部活動がある場合、インターハイやプロを目指すとき、高等学校が中学校に入学してほしい旨を伝え、中学校で間に入ってきた。今後も情報を地域クラブの指導者が先に知ることがないように、進学や進学以外も含めて学校との連携をしながら、情報の共有をしていく。</p>
<p>田中 徹 (市民目線の会)</p>	<p>①広域の移動が考えられる。その中で連絡はLINEでするのか。教育委員会は子どもたちに携帯持て、ということか。</p> <p>②保護者にとって機器の部分の負担が余計にかかるのではないかとということではないか。(竹野委員長)</p> <p>③子どもたちの安全安心を担保して進めてほしい。(意見)</p>	<p>(みんなのブカツ推進室長)</p> <p>①今年度、専用のアプリがあり、すべての保護者にダウンロードしてもらっている。部活の中止や練習参加の事前登録等をアプリを通じて行っている。そのため、保護者にアプリをダウンロードしてもらっている。子どもに対しては、学校教育活動外であるため、携帯を持たせるかは保護者の意向としている。</p> <p>②学校のタブレットを持って練習に行くことは想定していない。今のところ、保護者はスマートフォンを持っている前提として進めている。現在は、スマートフォンがなくて困ったという情報は入っていない。今後、全国的に広まる中で、他県、他市町の情報等もつかんでいく。</p>
<p>上 麻里 (政友クラブ)</p>	<p>①会場の予定校一覧を見ていくと、活動場所が渋滞しないのか。</p>	<p>(みんなのブカツ推進室長)</p> <p>①どこの学校も既存のクラブ数は減る。使用するクラブの重複がないように調整していく。学校には、2か月前から申請して確認して行う。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
中川 雅晶 (公明党)	<p>○ICT活用による学習環境整備事業について</p> <p>①ICTを活用していく中で、ICTの専門的な方の配置も現場は望んでいる。配置を考えてほしい。ヘルプデスクとかここに連絡すればトラブル解消ができるような体制にしたい。</p>	<p>(教育推進課長)</p> <p>①令和8年4月に児童端末を更新する。新しい通信環境も構築できる。</p> <p>ICTのトラブル対応は、今年度4月から専門のICT推進スタッフで対応している。学校での認知度もあがってきた。学校から直接ICT推進スタッフに電話が来て、対応できるほどである。</p>
中川 雅晶 (公明党)	<p>○不登校対策推進事業(メタバース空間を活用したオンライン支援)について</p> <p>①メタバース空間を活用したオンライン支援について、学校との連携や支援状況の共有はどのように行われているのか。</p> <p>②利用見込みの10名を定員としているが、定員を超えた場合の対応はどう考えるか。</p> <p>③1人当たりで考えるとかなり手厚い予算だが、学校現場とのやり取りなど、委託によって得られた知見を活かして検証し、全小中学校と共有することを意識して取り組むべきと考えるがどうか。</p>	<p>(登校サポートセンター所長)</p> <p>①月に一度、入退室の状況や今後の支援計画を記した月次報告レポートを学校へ送付し、この支援に参加した児童生徒を出席扱いとしている。また、学期に一度は委託先と学校がオンラインで直接情報交換を行う場を設けており、可能な場合にはスクールソーシャルワーカー等も交えて情報を共有している。</p> <p>②定員はトライアルの実績から設定したが、実施状況を見ながら柔軟に対応を検討したい。</p> <p>③この事業は不登校支援のノウハウを学ぶ場でもあると認識しており、委託先の伴走支援の手法などを吸収し、得られた知見を学校現場で生かしていきたい。</p>
上 麻里 (政友クラブ)	<p>①具体的に成果が見えた事例はあるのか。</p>	<p>(登校サポートセンター所長)</p> <p>①週1回程度のオンライン面談「作戦会議」を通じて、支援者との間に強い信頼関係が築かれた事例がある。その安心感が心の安定に繋がり、長期の不登校だった児童が月1回程度の放課後登校を再開するなど、具体的な行動変容が見られている。</p>
山田 知美 (新風創志会)	<p>○不登校対策推進事業(小学校校内ふれあい教室)について</p> <p>①中学校の校内ふれあい教室が全校に設置されるまで、着手から何年を要したか。</p> <p>②令和7年度から始まった小学校へのモデル校拡充の状況を確認したい。</p> <p>③来年度の調査研究を十分に進め、令和9年度以降に拡充が進むことを期待する。(意見)</p>	<p>(登校サポートセンター所長)</p> <p>①中学校は令和2年度の開始から全校設置まで6年を要した。</p> <p>②小学校については、今年度から富田、常磐西、日永の3校でモデル実施している。中学校とは異なるため運営方法を今後さらに検討するため、令和8年度も引き続きこの3校で調査研究を行い、効果的な在り方を検討していく。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
山田 知美 (新風創志会)	<p>○「チーム学校」推進事業(スクールソーシャルワーカー)について</p> <p>①スクールソーシャルワーカー(SSW)の増員がなかなか進まない中で、来年度以降も常勤化は難しいのか。</p> <p>②SSWは学校と家庭をつなぐ重要な役割を担っており、人手不足により救えるはずの子どもがこぼれ落ちてしまうことを危惧する。人材不足を理由に1校に1人の配置をあきらめるのではなく、新たに人材を育成する考えはないのか。</p> <p>③県が配置するSSWは資格のない人材も含まれるが、市が配置する場合の資格の有無と支援の質の担保についての考え方を確認したい。</p> <p>④SSWの増員に向け、未資格者であっても適切な支援ができるよう、教育委員会として研修環境などの体制を整える前向きな検討を求める。(意見)</p>	<p>(育ち支援課長)</p> <p>①1校に1人の常勤配置は難しいと考えている。</p> <p>②SSWには複雑な案件に対応できる高度な専門性と能力が求められるため、質の担保が不可欠である。一定の資格や知見を有する人材の確保に努めつつ、今後の養成や確保の在り方についてもしっかりと検討していきたい。</p> <p>(教育長)</p> <p>③県が配置するSSWの中には社会福祉士等の資格はなくとも、教員免許保持者などの、子どもと接する経験を持つ者が配置されている。専門知識の面で社会福祉士と臨床心理士の役割分担は明確にしているが、研修や経験の積み上げを行いながら、質の確保に努めている。</p>
田中 徹 (市民目線の会)	<p>①SSWの全校配置、常勤化に関連して、養護教諭の増員や地域マネージャー的な人材の活用など、方策を考えてはどうか。</p>	<p>(教育監)</p> <p>①現在過渡期であり、学校で抱えていたものを、関係機関や地域が支援いただいている。SSWは専門性の高い職種であり、養護教諭に代替できることではないと考えるが、新しい力が学校に入っていくことは、子どもにとって望ましいことだと考える。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
中川 雅晶 (公明党)	<p>○メディア・リテラシー養成を通じた人権教育推進事業(出前授業)について</p> <p>①授業のこれまでの継続期間と波及効果を教えて欲しい。</p> <p>②出前授業は単発的になりがちだが、教育委員会からのフォローはあるか。</p> <p>③授業の「メディア・リテラシー」と「人権」のウエイトバランスはどうか。</p> <p>④AIが発達した時代に精巧なデマがあるメディアの使い方を学ぶリテラシー教育には、アップデートが必要と考えるがどうか。</p> <p>⑤家庭へのメディア・リテラシー向上のための取り組みも必要ではないか。</p> <p>⑥被害に気づかせ、被害を最小限に留める工夫やその対処方についても授業に入れることはできるか。</p> <p>⑦警視庁が発表した「SNSでのやり取りをきっかけに犯罪被害にあった子どもが1,566人で、その中でも小学生の被害は167人と近年増加している」という記事があった。さらなる努力をしていただきたい。</p>	<p>(人権・同和教育課長)</p> <p>①令和2年からはじめ、効果としては、情報に惑わされないメディア・リテラシーだけでなく、クラスの中の日常的な人権学習や人権教育につなげている。</p> <p>②まずは、教職員に対しての研修を様々行っており、メディア・リテラシーの視点を入れた研修を必ず行っている。リーダー育成研修では、授業実践に取り組んでもらっており、当課指導主事が学校訪問してフォローもしている。</p> <p>③児童生徒のメディア・リテラシーの知識習得だけに終わっていないか、日常生活の中で本当に実践できているかを大切にしている。また、青少年育成室や人権センターとの連携も大切にしており、社会教育などとの役割分担もしている。</p> <p>④授業の内容は、外部講師だけにまかせきりにせず当課も関わって毎年アップデートしている。現在は、デジタル機器を通して自分が賛成する意見ばかりを集めてしまう情報の偏りといったものも取り上げている。今後は、生成AIなどの内容も含めて更新していく。</p> <p>⑤メディア・リテラシーと人権に関するリーフレットを作成し保護者啓発に取り組んでいる。令和8年度は、より保護者にリーフレットを見てもらえるよう、啓発方法も工夫をしていく予定である。</p> <p>⑥リーフレットには相談窓口の案内をするなどの啓発もしている。また、青少年育成室や人権センターと連携してやっていく。</p> <p>⑦どんな人権課題もメディア・リテラシーが関わると認識しており、今後もしっかり連携して進めていく。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
山田 知美 (新風創志会)	<p>○各教室間での通信環境について</p> <p>①現在環境が整っていないため何か手だてが必要との声があるがどうか。</p>	<p>(教育推進課長)</p> <p>①現在子どもや教員のタブレットで代替はできない状況であり、手だてを検討しているところである。</p>
上 麻理 (政友クラブ)	<p>①不審者侵入時はどのように各教室へ安全確保を促すのか。</p>	<p>(学校教育課長)</p> <p>①中学校においてはインターホンがないため声掛けをし職員室へ伝えたくて既存の放送設備を使用して他の教室へ知らせる運用をしている。不審者を興奮させないような用語を取り決めており、それを使って知らせることにより避難ができるような形をとっている。</p>
竹野 兼主 (フューチャー 四日市)	<p>①令和8年度予算には計上されていないが今後の予算の検討をお願いしたい。(意見)</p>	
伊世 利子 (フューチャー 四日市)	<p>○学校給食費について</p> <p>①食べ残し量を把握していないとのことだが考えはかわらないのか。</p> <p>②食べ残しが多いと感じることはないか。</p> <p>③毎回の計量でなくても数値があると子どもたちにもわかりやすいと考える。今後無償化になり食べ物の大切さを実感できるようにするためにも実施してはどうか。</p> <p>④完食を目標に工夫しながら検討してほしい。</p>	<p>(学校教育課長)</p> <p>①現在のところ限られた人員と給食の提供から後片付けも含めた時間の制約が各学校、給食センターにあるため、すべてにおいて残渣を継続して計量することは難しい。</p> <p>②中学校においてはかなり喫食されている状況であり、小学校においても計量は実施せずとも残渣が多い場合は献立の工夫をしている。</p> <p>③食に対する感謝の気持ちについては食育において引き続き進めていき、残渣の計量の必要性については考えていきたい。</p>
上 麻理 (政友クラブ)	<p>①無償化になった際に食べ残すということは税金の無駄が発生することになる。その観点からも子どもたちが納得する食事の提供に関して調査は必要ではないか。全校でなくてよいので調査を実施し、学校の傾向や子どもたちから美味しくないものの意見を収集することが大切である。(意見)</p>	
中川 雅晶 (公明党)	<p>食品ロスの観点は重要だが、完食を目指すのはいかがなものかという視点も必要ではないか。</p>	<p>(議員間討議)</p> <p>(伊世委員)</p> <p>食べることができる分だけにするほうがよいと考えており、他の子どもや教職員で分担して食べることで完食するということである。</p> <p>(上委員)</p> <p>子どもたちに何が喜ばれるかという視点を持ってほしいと考えており、残渣が悪いということではなく、よく残るものがあれば工夫をして食べやすくするなどに繋げてもらいたい。</p> <p>(竹野委員長)</p> <p>先ほど学校教育課長から食育について答弁があったことから、食育の部分をさらに進めてもらうことを願います。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
笹岡 秀太郎 (政友クラブ)	<p><b>○図書館維持管理費について</b></p> <p>①利便性向上に資する経費として、現図書館の維持管理もしっかり行う姿勢が出ていることはよいが、突発的な不具合対応として予算計上しているものには、事前に想定して予算計上できるものがあるのではないか。</p> <p>②現図書館を大切にすることが、次の図書館につながっていくと考える。新図書館に移行するまでの間、課題意識を持ち、現図書館を市民の財産として大切にしていける姿勢を維持してほしい。(意見)</p>	<p>(図書館長)</p> <p>①「突発的」という書きぶりがよくなかったと反省している。予防保全が難しいものも多く、限られた予算内で優先順位をつけて対応していくため、植栽などは後手に回ることが多かったが、今回はそれも含めて積算をした。</p>
上 麻里 (政友クラブ)	<p>①当然行うべき修繕管理以外で、やらなければいけないところに予算をつけてほしいという意図があって提言を行ったのだが、この予算がなければどう対応していたのか。</p> <p>②新図書館ができるまでは、予算をかけるだけでなく、ボランティアの協力も得るなど、現図書館を大切に維持していく視点を忘れず取り組んでほしい。(意見)</p>	<p>(副教育長)</p> <p>①授乳ブースの設置などは別で予算化している。日常的な修繕費は、令和6年度150万円から来年度は400万と増額されており、より適切に修繕等に対応できるようになった。新図書館整備の予定があるため、休館を必要とするような大掛かりな改修は控えながらも、適正に維持管理していきたいと考えている。</p>
上 麻里 (政友クラブ)	<p><b>○博物館の特別展について</b></p> <p>①令和8年度特別展の運営は全て委託になるのか。</p> <p>②猫猫はくぶつかん展は昨今の猫ブームもあり、集客が見込める企画と思われる。創意工夫を凝らしてしっかりやってもらいたい。また、今まで博物館に来たことがない人が来る可能性がある展示と思うが、この予算で十分なことができるのか。</p> <p>③公式LINE等により広く周知啓発を図っていただきたいが、そのあたりの意気込みを聞きたい。</p> <p>④いつかデジタル分野の展示にも取り組んでもらえるようパワーアップを期待する。(意見)</p>	<p>(博物館副館長)</p> <p>①特別展の運営については、委託する部分と博物館職員が担当する部分がある。展覧会によってその割合が異なることから、開催負担金などの費用も異なる。</p> <p>②大正イマジユリの世界展はパッケージだけでなく当館収蔵品も加えた展示を考えている。また、猫猫はくぶつかん展はパロディを切り口に、元の作品への関心を促すキャプションを作るなど、各展覧会の特性に応じて、予算内で創意工夫を凝らしたい。</p> <p>③ SNSやメディアなどあらゆる媒体を活用し、必要な方へ情報が届く発信を意識して引き続き取り組んでまいりたい。</p>
竹野 兼主 (フューチャー四日市)	<p><b>○博物館のイベントについて</b></p> <p>①夏休みなど1日限定のイベントに多数の人が来ていると聞いている。このようなイベントも予算をしっかりとって進めてもらいたい。</p>	<p>(博物館副館長)</p> <p>①令和8年度も魅力的なイベントを予定している。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
山田 知美 (新風創志会)	<p>○小規模校における保護者負担について</p> <p>①卒業アルバムは人数割で価格が決まるため、生徒数が少ない学校だけ高価になってしまい、地域によって保護者負担の差が発生することについてどうか。</p> <p>②小規模ならではの課題、大規模ならではの課題があるためこの問題だけが優先されるべきではないが、他にも修学旅行先の選定等課題はあるため現場の声を聞いて解決してほしい。(意見)</p>	<p>(学校教育課長)</p> <p>①就学援助世帯には補助を行い保護者負担を軽減している。卒業アルバム全般については各校がそれぞれ業者と話しあいを重ねる等創意工夫を行い対応している。</p>
中川 雅晶 (公明党)	<p>①解決方法としては市全体で受注して人数割で価格設定する方法か高額な場合に補助を行うかしかない。(意見)</p>	
竹野 兼主 (フューチャー 四日市)	<p>①まずは教育委員会において現状を調査し、教育民生常任委員会でのワイワイ議会における問題点ということで検討課題としてほしい。(意見)</p>	

## 令和8年2月議会(予算常任委員会教育民生分科会)の質問質疑に対する答弁要旨

## ◎補正予算

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
伊世 利子 (フューチャー 四日市)	○インクルーシブ教育推進事業費について ①介助員・支援員・医療的ケアについて、配置の不足はなかったのか。	(育ち支援課長) ①介助員・支援員・医療的ケアについては、常用が見込みより少なく、非常用が多かった。しかし、配置についての不備はなかった。
中川 雅晶 (公明党)	○学校給食運営費の減額補正について ①減額となった大きな要因は何か。	(学校教育課長) ①喫食者数が見込みを下回ったことに加え、学校行事等による喫食回数の減少によるものである。
竹野 兼主 (フューチャー 四日市)	①その要因について当初から見込むことはできなかったのか。	(学校教育課長) ①予算要望時は年間の実施可能日数を見込んで積算しており、そこから各校の行事等により回数減となったものである。見込みをもった予算積算については今後改善を図る。
中川 雅晶 (公明党)	○移動図書館運営費について ①受注増により完成が間に合わないとのことだが、そんなに受注が集まる車種なのか。  ②どのくらい遅れる予定なのか。	(図書館長) ①ベースとなる車両のモデルチェンジの時期と重なり、車両の改造を行う製作会社への納品が遅れた。  ②2ヶ月ほど遅れ、5月中旬ごろの納車予定である。

## 令和8年2月議会(教育民生常任委員会 協議会)の質問質疑に対する答弁要旨

## ◎橋北小学校改築工事について

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
中川 雅晶 (公明党)	①改築後、運動場の広さは変わるのか。	(教育施設課長) ①広さは変わらないが、南へ広げる形になる。
山田 知美 (新風創志会)	①ワークスペースとはどのように活用するのか。	(教育施設課長) ①ワークスペースは普通教室に併設しており、集団で作業する場合に活用している。また、隣のワークスペースとの壁は可動式の間仕切りとなっており、多様な使い方ができるようになっている。
中川 雅晶 (公明党)	①避難スペースの高さは。 ②津波に対してはどうか。 ③橋北の海拔等から考えて大丈夫か。 ④4階の多目的ホールにおけるステージの使い道は。 ⑤サポートルームの配置が校舎の左端であるが、他の児童の目に触れないよう、利用する児童の動線が配慮されているか。 ⑥「フレキシブルな空間」とは具体的にどのようなものか。 ⑦多目的トイレは部分的に設置されているのか。 ⑧駐車場と運動場が隣接しているが、安全面に問題はないか。 ⑨夏の異常な暑さ対策として、今回の改築の中で冷水器を設置してはどうか。	(教育施設課長) ①既設の特別教室棟の屋上階の高さが12mである。 ②津波避難所としては3階以上の高さであればよいと確認している。 ③現在も津波避難ビルに指定されており、問題ない。 ④既存の多目的ホールでの使い道はもちろん、より有効的に使えるよう、今後、学校と協議してまいりたい。 ⑤校舎の西側にある、渡り廊下への出入り口の活用を想定している。 ⑥教室とワークスペースの間には間仕切りがなく、ワークスペース間は可動間仕切りとなっており、隣の部屋と併せた使い方もできる。高花平小学校でも取り入れており、学校において自由な使い方をしてもらっている。 ⑦1階から4階まですべての階に設置しており、1階にはオストメイト用の設備も整備する。 ⑧歩車分離を行っており、来客用の車両と児童の動線とは交錯しない。 ⑨冷水器を設置する計画はない。
上 麻里 (政友クラブ)	①森林環境譲与税は活用するのか。 ②是非、三重県の木を活用するなど、取り入れてほしい。(意見) ③屋上の避難スペースに、避難に対する必要な設備、例えば手洗い場などを整えているか。 ④蓄電池は設置しないのか。	(教育施設課長) ①活用が可能か制度の研究をしていきたい。 ③自家発電機があり、コンセント等を設置する。その他の条件等は、今後、危機管理課とも協議していく。 ④教育委員会としては設置の予定はない。

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
山田 知美 (新風創志会)	<p>①蓄電池はかなり高価であるが、売電をするなど工夫してほしい。(意見)</p> <p>②避難スペースにおける、想定収容人数は。</p> <p>③防災備蓄用品は、子どもたちのためのものか。避難者のためか。</p> <p>④防災備蓄のためのスペースが少ないのでは。(意見)</p>	<p>(教育施設課長)</p> <p>②屋上の面積を1人/m<sup>2</sup>で換算し、特別教室棟で240人程度、改築校舎の4階で376人、屋上階で334人程度は収容できる。併せて、校舎内も避難スペースとして活用できる。</p> <p>③現在も防災備品は用意されており、子どもや市民のためのものと理解している。危機管理課が中身などを検討し、用意していく。</p>
笹岡 秀太郎 (政友クラブ)	<p>①防災井戸は橋北中と橋北地区市民センターには設置されているが、橋北小には設置しないのか。</p>	<p>(教育施設課長)</p> <p>①橋北小にも平成26年頃に設置されており、移設の要否も含めて危機管理課と調整する。</p>
田中 徹 (市民目線の会)	<p>①駐車場へ進入してくる車両と、登校する児童が錯綜することはないか。</p>	<p>(教育施設課長)</p> <p>①駐車場は配置図の敷地東側と北側に設けており、歩車分離を行うことにより影響はないと考えているが、全体計画の中で、しっかり安全を確保していく。</p>
竹野 兼主 (フューチャー四日市)	<p>①インターホンの整備を検討しているか。</p>	<p>(教育施設課長)</p> <p>①インターホンは小学校では整備済みであり、今回も整備する。</p>
中川 雅晶 (公明党)	<p>①仮設校舎は2年リースであるが、プレハブで学習環境は確保されているのか。</p> <p>②概算事業費の見込みは。</p> <p>③委員会へ示される時期は、いつ頃の予定か。</p> <p>④文部科学省の補助金や、起債、基金の活用などを検討されたい。予算議案を上程する前に、委員会に報告を行ってほしい。(意見)</p>	<p>(教育施設課長)</p> <p>①海蔵小学校、高花平小学校の改築時と同程度のものであり、エアコンを整備し、学習環境の配慮に務める。</p> <p>②近年の物価高騰により、高花平小の改築時より1.4倍程度の費用を要する見込みである。</p> <p>③現在、基本設計を行っており、令和8年11月議会での補正予算計上を予定している。</p>
笹岡 秀太郎 (政友クラブ)	<p>①萬古焼の活用について、破損した際に作り直すと高額となることから、予め、予備を作っておくなど、工夫しながら取り組んでほしい。(意見)</p>	<p>(教育施設課長)</p> <p>①貴重なご意見として、参考にさせていただく。</p>

## 令和8年2月議会(教育民生常任委員会 報告)の質問質疑に対する答弁要旨

## ◎四日市市学校規模等適正化事業について

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
中川 雅晶 (公明党)	<p>①適正化の検討に入ったのは何年からか。</p> <p>②平成24年当時からICTなど、環境がかなり変わっている。当初の学校規模等適正化を定めた段階から、考えていかなければならない視点が変わっているのではないか。</p> <p>③平成19年や24年当時に考えていた小規模校のデメリットが今の環境においてはメリットである点も考慮する。適正化の考え方の基準自体を少し見直さなければならないと思うが、教育委員会はどのように考えているか。</p> <p>④小中一貫の取り組みとして塩浜小中、橋北小中で行った検証成果はどうなのか。</p> <p>⑤小規模特認校制度を進める中で、教育的な観点や地域の中の学校といった面で、今年やってきた中で良かった点は。</p> <p>⑥一貫校にすることで教員側に余裕が出たり、科目別のスキルアップがあったりと、教員側の学校運営としてのメリットはあるのか。</p>	<p>(教育監)</p> <p>①平成19年度に四日市市学校規模等適正化に関する基本的な考え方及び適正化計画を策定し、平成24年度に学校規模等適正化計画を策定した。そこから毎年度推計値に基づいて改定しながら進めてきている。</p> <p>(教育総務課長)</p> <p>②当時は学校の規模等を重視し、国も学校の配置そのものに重点を置いていた。昨今は、国も小規模校なりの良さを勘案し、規模だけを考えたの統廃合ではなく、小規模校の良さも活かしつつ、子どもたちの課題を最小化して良い面を増幅させるという考え方に変ってきている。</p> <p>③小規模校ならではの良さに目を向けるなか、小学校においては地域コミュニティの核という性格もあり、地域に一つの小学校を残すことが望ましいと考えると、規模だけを考えた統廃合をするのではなく、小規模校なりの良さを活かす取り組みを行い、教育環境を充実させていきたいと考えている。</p> <p>④小中合同の避難訓練や文化祭での合同合唱などの交流では、小学生から見ると先輩の姿を見て刺激を受け、中学生から見ると若年者への配慮が生まれるなどの様子が見て取れた。地域の中での協働や世代間交流の動きにもつながるなどの効果があると考えている。</p> <p>⑤水沢小学校の子どもたちにとって、市内の別の学校から新しい児童が加わることで、多様な考え方や見方に触れられ、刺激を受けるなど、一定の活性化につながる効果があった。</p> <p>(教育長)</p> <p>⑥現状は小中が離れていることで移動時間の負担があり、定数配置も小学校と中学校で分かれているため、中学校の教員が小学校の授業を見る余力を生み出す配置ができていない。乗り入れ授業など、中学校の専門性を持った授業を展開するのであれば、本市単独で講師を増やすしかないが、現状は非常に厳しい環境にある。教科の専門性を活かした教員の巡回指導システムは取り組んでみたいが、物理的な教員不足という壁があり、なかなか踏み込めていないのが現状である。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>中川 雅晶 (公明党)</p>	<p>⑦一貫校という括りにすれば、一つの学校としての人数についての教員配置になるということか。</p> <p>⑧小規模特認校制度については、学校がどのようなチャレンジや教育方針でやっているかなどを、広く市民に向けて発信することを強化してはどうか。</p>	<p>(教育監) ⑦一貫校になれば一つの学校になるので、校長一人など管理職は一つの学校として配置され、小中学校を合わせて教員配置がなされる。小中一貫教育を施設の一体化や学びの一体化の発展形として考えてきたのは、その辺りもメリットとして進めてきたものである。</p> <p>(教育長) また、施設が一体でも、中学校と小学校が同じ建屋にいて別々の学校を名乗り、校長も教頭もそれぞれいるところもある。</p> <p>(教育総務課長) ⑧昨年から今年にかけて小学校のグランドデザインとして、子どもたちが「水沢地区で学ぶ、水沢地区を学ぶ、水沢地区と学ぶ」という形で、学年ごとに地域とどう絡んで中学校まで展開していくか整理している。地域の方とは情報を共有しており、今後はそういったものをPRしていくことも考えている。</p>
<p>山田 知美 (新風創志会)</p>	<p>①適正な学校規模にしていくことが統廃合になっているが、学校区の再編成はやはり難しいのか。</p> <p>②推計で子どもが半分に減る地区もあれば増える地区もあるので、統廃合だけでなく子どもの数に応じ、通学区の変更など柔軟な計画が必要ではないか。</p>	<p>(教育総務課長) ①過去からの経緯で学校区は設定されており、各地区や地域共同体の仕組みが深く絡んでいるため、すぐさま通学区を変えることは今のところ考えていない。</p> <p>(教育長) ②通学区の弾力的な運用という制度があり、地理的要因で近い学校を選択できる制度はある。しかしながら、教育委員会が推奨はしておらず、保護者の考えで選択していただく制度として設けているが、総合的には今後も検討していく課題の一つであると思っている。</p>
<p>上 麻里 (政友クラブ)</p>	<p>①小学校で児童数が増えている学校があるが、どういう理由で増えている推移が出たのか教えてほしい。</p> <p>②教育だけでなく自治会など様々な方が交じって、例えば四日市をブロックに区切った意見交換会など、将来を見据えた話し合いもされているということでしょうか。</p>	<p>(教育総務課課付主幹) ①推計値の算出については、住民基本台帳の人口推計をベースに宅地開発等の情報を入れながら10年の推計を取っている。</p> <p>(教育監) ②かつて中学校の小規模化が問題になってくる段階で、市内をブロックに分けて中学校の配置のあり方をどう検討するか、すべての連合自治会の会議にお示ししたことがある。中学校の大きな課題でもあった部活動も地域展開によってフェーズが変わってきた。間もなく施設の改築ラッシュが来るタイミングで、その場所への学校配置が適正かどうかも含め、今後のフェーズで考えていくことを課題として持っている。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>竹野 兼主 (フューチャー 四日市)</p>	<p>①多額のお金をかけて新しい建物を建てても、20年後に子どもがいなくなり別の用途に使うことにならないか心配している。小中一緒に作ることも考えてきたと言うなら、橋北小学校の改築について、中学校も使える形で設計段階で考える余裕はなかったのか。中学校も生徒数が少ないので、小中一貫校ができるのであれば今作る一番いい時期ではないかと思う。そのような観点はないのか。</p> <p>②複式学級にならないようにするのが基本にあったと認識しているが、複式学級になりそうな場合の対応は今も残っているのか。</p>	<p>(教育総務課長)</p> <p>①橋北小学校については、老朽化を先送りにできないところが大きいポイントであったと考える。今後は小中一貫のことも考えながら、施設の再整備計画を考えていかなければならないと認識している。</p> <p>(教育総務課課付主幹)</p> <p>②複式について2学年合わせて16名以下となる場合だが、複式になるかどうかは10年推計で毎年のように検証している。計画に明記するかどうかはあらためて全体を確認して考えていく。</p>

令和8年2月市議会定例会月議会

予 算 常 任 委 員 会  
全 体 会 資 料

知と交流の拠点施設整備事業について

政 策 推 進 部

**【目次】**

1. 知と交流の拠点施設整備事業費.....	P3
参考資料①.....	P12
参考資料②.....	P15

## 知と交流の拠点施設整備事業費 (新図書館等拠点施設整備)

### 1. 目的

知識や情報、人に出会える滞在型図書館を核とし、市民の創造・交流活動の場となる多目的ホール、カフェ等を組み合わせた、「知」と「交流」の拠点施設の整備を進める。

### 2. 内容

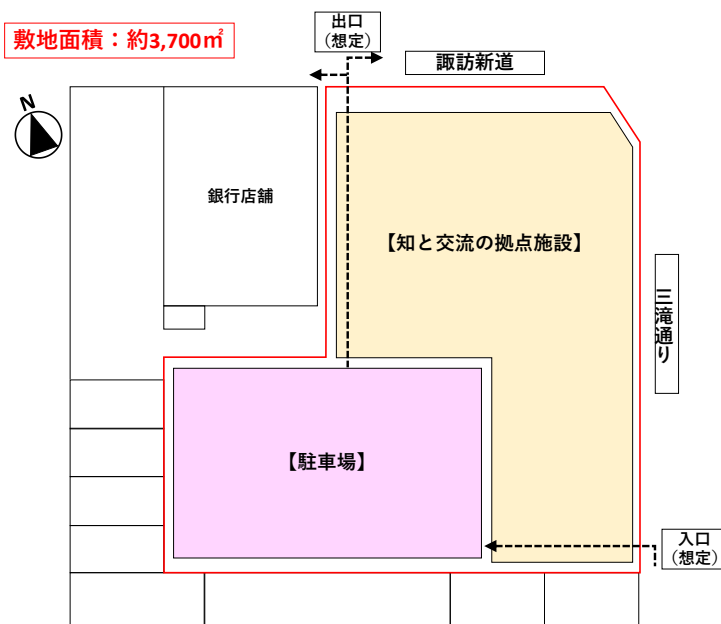
中心市街地の市役所北側民有地において、滞在型の「知」と「交流」の拠点施設整備に向け、市民意見をいただきながら、建物の配置、間取り、外観、構造、設備などの基本的な内容を図面としてとりまとめる基本設計を行うとともに、拠点施設からの雨水の流出抑制方策についての検討、地質調査を行う。

基本設計に合わせて実施する市民ワークショップについては、スターアイランド跡地での市民ワークショップ等でいただいた新図書館に関する市民意見に加えて、新たに多目的ホールなど図書館以外の機能を中心に市民意見をいただき、多目的ホールやワークショップスペースなど交流機能の使い方等について、基本設計に反映していく。

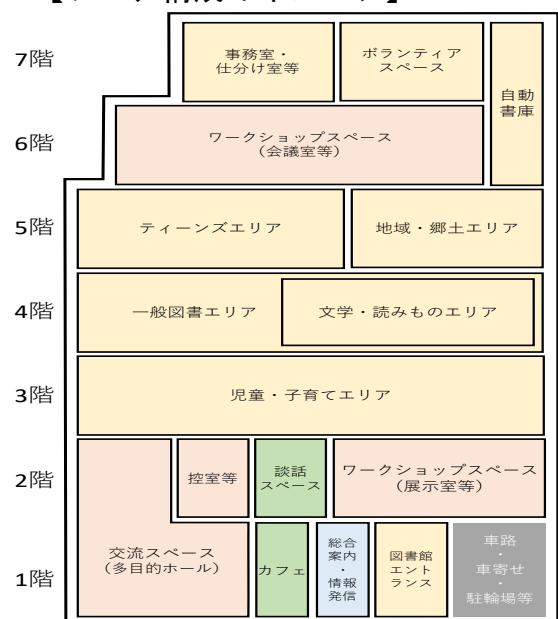
また、基本設計の次の段階である、実施設計から工事の段階においては、「設計施工一括発注方式（デザインビルド方式）」を採用する方針としている。そのため、基本設計と並行して、公募型プロポーザルによる施工者選定に向け、設計・工事の実施条件、建築の基本方針、施工者に求める内容や最低限の水準を取りまとめた要求水準書の作成や、審査会の運営支援等について業務委託を行う。

なお、要求水準書作成等プロポーザル支援業務については、業務期間が2か年に渡ることから債務負担行為を計上する。

#### 【建物配置のイメージ】



#### 【フロア構成のイメージ】



## 令和8年度当初予算資料 P33 より再掲

※建物配置・フロア構成については、基本計画（平成30年策定）の想定規模を基に配置したイメージであり、今後進める基本設計の中で内容を固める。

※2階のワークショップスペース（展示室等）については、活動の規模に応じて間仕切りを変更できる展示室のほか、多目的ホール（発表の場）と一体となった、音楽・ダンス・演劇など様々な活動の練習の場を設けるものとしている。

※6階のワークショップスペース（会議室等）については、知の拠点としてグループでの学習等に利用できる研修室・学習室のほか、市民が企画する講座等の開催場所や準備段階でのミーティングに利用できる、会議室等を設けるものとしている。

※なお、ワークショップスペースの規模（面積）については、他の公共施設との使い分けや役割分担を踏まえて、今後、基本設計を進める中で、基本計画の想定規模から見直しを検討する。

## 【業務区分】

業務区分	当初予算額	債務負担行為	合計額
基本設計	271,000千円	—	271,000千円
地質調査	26,000千円	—	26,000千円
要求水準書作成等 プロポーザル支援	8,100千円	18,900千円	27,000千円
合計	305,100千円	18,900千円	324,000千円

※基本設計については、現在、基本設計者の選定に向けた公募型プロポーザルを実施している。

**3. 予算額** 305,100千円 (財源内訳) その他特財 305,100千円  
(前年度 34,700千円) (都市基盤・公共施設等整備基金繰入金)

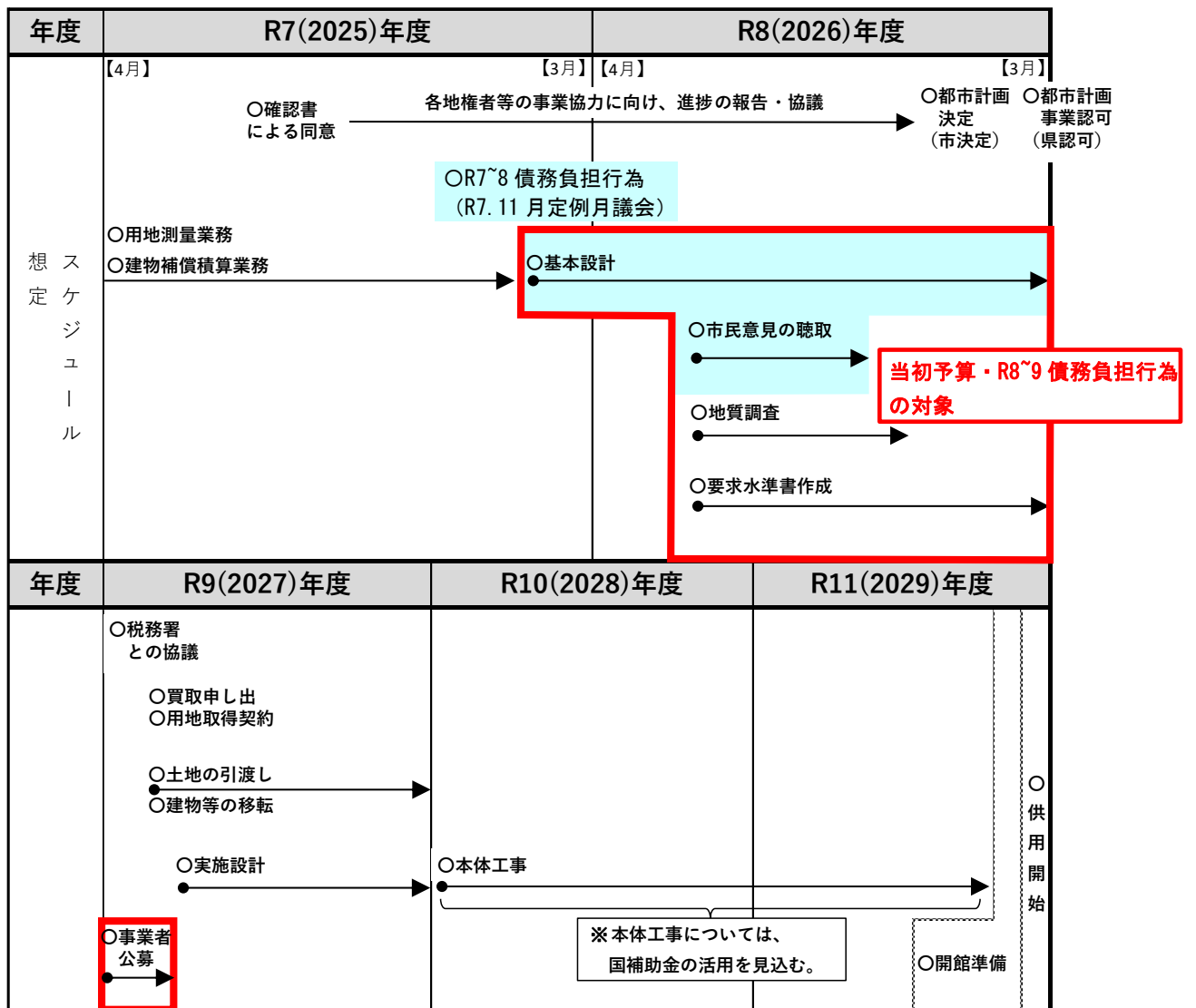
**4. 債務負担行為**

- ・知と交流の拠点施設整備要求水準書作成等プロポーザル支援業務委託費  
限度額 18,900千円 (総事業費 27,000千円)  
期 間 令和8年度から令和9年度まで

令和8年度当初予算資料（追加分）P4より再掲

5. スケジュール

- 各地権者等が、知と交流の拠点施設整備事業にご協力いただくに際し、本事業が『収用等の課税の特例（5,000万円控除等）』の対象となるよう、「都市計画決定（市決定）」や「都市計画事業認可（県認可）」の取得に向け、三重県等の関係機関との協議を進める。
- この特例を適用するための協議には、『事業計画を示した各階平面図、立面図等』が必要となることから、今後、基本設計を進め関係機関との協議が整った後に、各地権者等に正式な「買取申し出」を行い、「用地取得契約」を結ぶこととなる。
- 用地取得契約後、「土地の引渡し」及び「建物等の移転」については、実施設計と並行し、本工事着手までに完了するよう進める。



※各工程が最短で進んだ場合

## 6. 本事業における設計施工一括発注方式（デザインビルド方式）の採用について

近年、資材価格高騰や労務費上昇による建設コストの高騰に加え、専門性が高い職種を中心とした人手不足等の影響により、予定の延期や中止をするプロジェクトが相次いでいる。

特に、国内で大規模かつ長期間に渡る工場やデータセンターの建設、大型プロジェクト等が同時期に進行していること等の影響により、全国的に設備会社が多くを工事を抱え、すぐに工事を請け負える状況ではないことから、入札不調になっている事例が見られるため、設計施工一括発注方式（デザインビルド方式）を採用する公共事業が増加している。

### 【設計施工一括発注方式（デザインビルド方式）とは】

- ・建設会社が設備会社等と協力し、実施設計と施工を一体で担うことで、工期やコストの確実性が大幅に高まる。

### 【施工者の確保】

- ・人手不足の中でも、工事に先立った早い段階において、設備会社を含めた協力会社を確保できることで、施工者選定に係る入札不調リスクが低くなる。
- ・また、工事着手にあたり施工者を決める「設計施工分離発注方式」と比べて、工事発注の段階における入札不調（施工者が決まらない）リスクがなくなる。

### 【工期】

- ・実施設計段階から、施工者目線での確実性が高い工程管理が行えるとともに、建設会社等の施工者独自のノウハウ等を活かした工期短縮が可能となる。

### 【品質確保とコスト縮減】

- ・設計施工の事業者選定の段階において、施工者独自のノウハウ等を実施設計に盛り込めるため、機能・品質を維持しながらコスト縮減を図る提案が可能となる。
- ・実施設計の段階においても、予算内に収まる仕様を施工者が提案するため、コストコントロールが強化される。

- ・建設コストの高騰に加え、人手不足のリスクがある社会情勢の中、事業規模が大きく長期間にわたる本事業においては、施工者の確保が図れるとともに、施工者独自のノウハウ等を活かした工期短縮やコスト縮減にもつながる設計施工一括発注方式（デザインビルド方式）を採用することで、事業進捗を図っていく。

**7. 整備・運営費****(1) 整備費**

項目	費用（億円）	
設計費等	9.9 （R6~7 建物補償積算等 0.3 億円 R8 基本設計等 3.2 億円 R9 実施設計 6.4 億円）	
工事費	120~150	127~157
用地買収費等	7.0	
合計	136.9~166.9	
借地料	年額約 800 万円	

※ 施設整備にあたっては、国土交通省の都市構造再編集中支援事業（10~20 億円）などの交付金事業の活用を想定している。

※ また、イオングループ様より、「岡田屋呉服店跡地に近接した場所で整備される施設のコンセプトに賛同し、貢献していきたい。」旨の意向を伺っており、知と交流の拠点施設の整備にあたり、10 億円の寄附をいただけることとなっている。

**(2) 現図書館の除却費と自動車文庫の拠点工事費（令和5年8月総務常任委員会資料より）**

項目	費用（億円）
現図書館の除却費	3.8
自動車文庫の拠点工事費	1.2
跡地の売却費	-4.6
合計	0.4

※ 現図書館除却後の跡地については、庁内で有効活用の検討を進めた上で、活用が見込まれない場合には売却していく。

**(3) 運営費**

知と交流の拠点施設における管理運営については、直営のほか民間への業務委託・指定管理といった手法が考えられるものの、複合施設であり民間に委託する内容や範囲が定まっていないため、現時点で管理運営費を想定することはできないが、現図書館の物件費等（光熱水費、施設管理費等）としては、直近3か年度の実績平均で1億4,300万円/年あまり要している。

**【参考：知と交流の拠点施設建設による経済波及効果】**

区分	建設投資額	（うち現在見込める 特定財源を除いた 市の負担額）	波及効果
建設費用等	120 億円 ~150 億円	（100 億円 ~130 億円）	168 億円 ~210 億円

## 8. 国による支援制度等

### (1) 都市構造再編集中支援事業

知と交流の拠点施設については、中心市街地（都市機能誘導区域）の範囲内に整備することで、コンパクトなまちづくりに向けた都市機能の集積・高度化が図られるため、国による「都市構造再編集中支援事業」の支援制度が活用可能である。

#### ①補助対象

- ・都市機能誘導区域内において、立地適正化計画に位置付けられた誘導施設として、「図書館」が該当
- ・地域交流センター等の高次都市施設として、「多世代交流機能」、「情報発信・コミュニケーション機能」が該当

#### ②補助率

- ・50%

#### ③限度額

- ・図書館機能、多世代交流機能、情報発信・コミュニケーション機能をあわせて、10億円～20億円の支援を受けることが可能

### (2) 地域未来交付金【地域未来推進型】（旧第2世代交付金）

地方の大きな伸び代と地域特性を最大限に活かし、地場産業の付加価値向上等を通じて、地方の暮らしの安定を実現し、「強い経済」を構築するため、地方公共団体の自主性と創意工夫に基づく地域独自の取組が支援対象となる。

今後、国において令和8年夏を目途に、「強い経済」の実現に力点を置いた「地域未来戦略」が取りまとめられ、分野ごとに施策が推進される。

#### ①補助対象

- ・知と交流の拠点施設については、地域経済の維持及び拡大を目指す取組及びこれに関する周辺的な取組として対象になる想定
- ・事業期間は原則3か年度以内（最長5か年度）

#### ②補助率

- ・50%

#### ③限度額

- ・1事業当たり最大15億円の支援を受けることが可能
- ・別途、1自治体当たりの単年度ごとの限度額が15億円に設定されているため、本市における他事業との調整が必要となる

・今後、設計を進める中で国と協議を行い、補助対象を確認しながら、本市にとってより有利となる補助金を活用する。

・また、イオングループ様より、「イオングループ発祥の地とも言える、岡田屋呉服店跡地に近接した場所で整備される施設のコンセプトに賛同し、地域の生涯学習、文化の発展に貢献していきたい。」旨の意向を伺っており、知と交流の拠点施設の整備にあたり、10億円の寄附をいただけることとなっている。

9. 現図書館と新図書館における蔵書冊数について

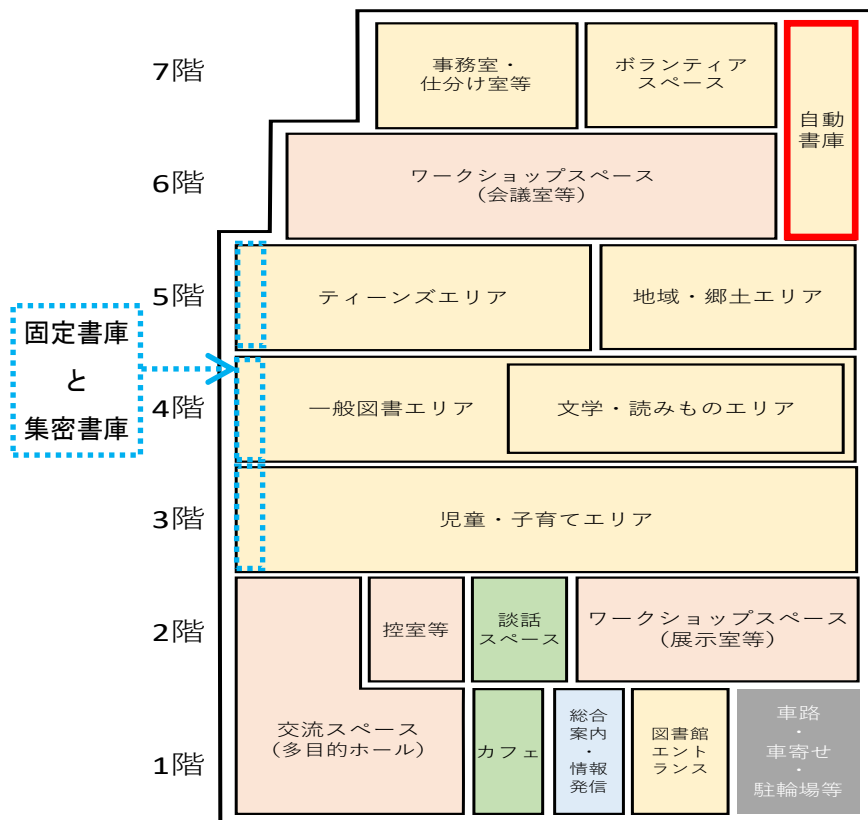
(1) 蔵書冊数の比較

開架とは、利用者が自由に手に取れる書棚等を収蔵するもの。

閉架とは、図書館職員のみが出入りできる書庫の事で、利用者からの請求に応じて本を取り出すものとなる。

現図書館：4,147 m <sup>2</sup>		新図書館での想定：6,800 m <sup>2</sup> (H30 基本計画における図書館機能の専有部分)	
開架	約 17 万冊	開架	30～40 万冊
閉架	約 24 万冊	閉架	30～40 万冊
館外	約 4 万冊		
自動車文庫	約 3 万冊	—	—
合計	約 48 万冊	合計	70 万冊
新図書館と別の公共用地で検討 →		自動車文庫	6 万冊




【知と交流の拠点施設におけるフロア構成のイメージ】



- ・ 拠点施設全体では 13,150 m<sup>2</sup>を想定
- ・ 1階～5階については約 2,000 m<sup>2</sup>/階を想定

## (2) 閉架書庫について

閉架書庫については、床に固定された書棚に収蔵する「固定書庫」、レーン上にスライド式の書棚を並べた「集密書庫」、コンテナに格納された資料をラックに入れて高密度保管し、図書館システムと連動した「自動書庫」に分類される。

	現図書館		新図書館		
	固定書庫	集密書庫	固定書庫	集密書庫	自動書庫
1㎡当たりの収蔵冊数の目安	200～250冊/㎡	400～500冊/㎡	200～250冊/㎡	400～500冊/㎡	800～1,000冊/㎡
冊数	約19万冊	約5万冊	10万冊（想定）		20万冊（想定）
面積	約740㎡ ※1～3階に分けて配置	約100㎡ ※1階に配置	250㎡（想定） ※3～5階に分けて配置		250㎡（想定） ※6階に配置
イメージ等	<ul style="list-style-type: none"> <li>固定書庫</li> </ul>  <p>【現図書館】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集密書庫</li> </ul>  <p>【現図書館】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動書庫</li> </ul>  <p>【一宮市立中央図書館】</p>		

## 【参考：館外（文化財収蔵庫）】

項目	内容
所在	四日市市寺方町1506
竣工年度	昭和38年（旧三重県理科教育センター）
所有者	四日市市（建物・土地）
敷地面積	4,752.4㎡
建物面積	延1,740.84㎡
図書館蔵書・収納面積	蔵書数約4万冊、図書館蔵書収納面積98㎡

## ・位置図



## ・写真



## 10. 知と交流の拠点施設におけるホールについて

### （1）交流スペース（多目的ホール等）について

#### ○多目的ホールの位置付け

- ・多目的ホールについては、平成30年の基本計画において、市民が企画する音楽、ダンス、演劇、講演など様々な創造活動の発表などの場として位置付けていた。
- ・スターアイランド跡地では、民間施設の共有や、構造等の制約からコストが過大になることから、多目的ホールの整備は難しかった。
- ・今回の候補地では、市単独での整備となるため、多目的ホールを整備することが可能となり、総合計画の推進計画事業である小規模ホールとして整備していく。

#### ○総合計画に位置付けた小規模ホールについて

- ・長年、文化活動団体や市政アンケートから、市民グループが利用しやすい規模のホールを望む声が寄せられており、市民の多様で活発な文化活動を促し、文化を創造する環境づくりを推進するため、小規模ホールについては、音楽や演劇、舞踊等の舞台公演に必要な音響等の舞台装置を備えた、市民グループが利用しやすい規模で整備していく。
- ・小規模ホールの整備によって、既存の四日市市文化会館第1ホール（約1,800席）、第2ホール（約600席）と、公演の規模に応じた施設の使い分けも可能となる。
- ・拠点施設における多目的ホールを、総合計画に位置付けた「市民グループが利用しやすい規模のホール」として活用できるよう、今後、機能面等の整理を行いながら検討を進めていく。

### （2）市内のホールの稼働状況

施設	室数	座席数	平均稼働率		
			平日	休日	全体
文化会館	第1ホール	1786席	40.6%	74.4%	53.0%
	第2ホール	593席	43.9%	86.8%	59.6%
	平均		42.3%	80.6%	56.3%

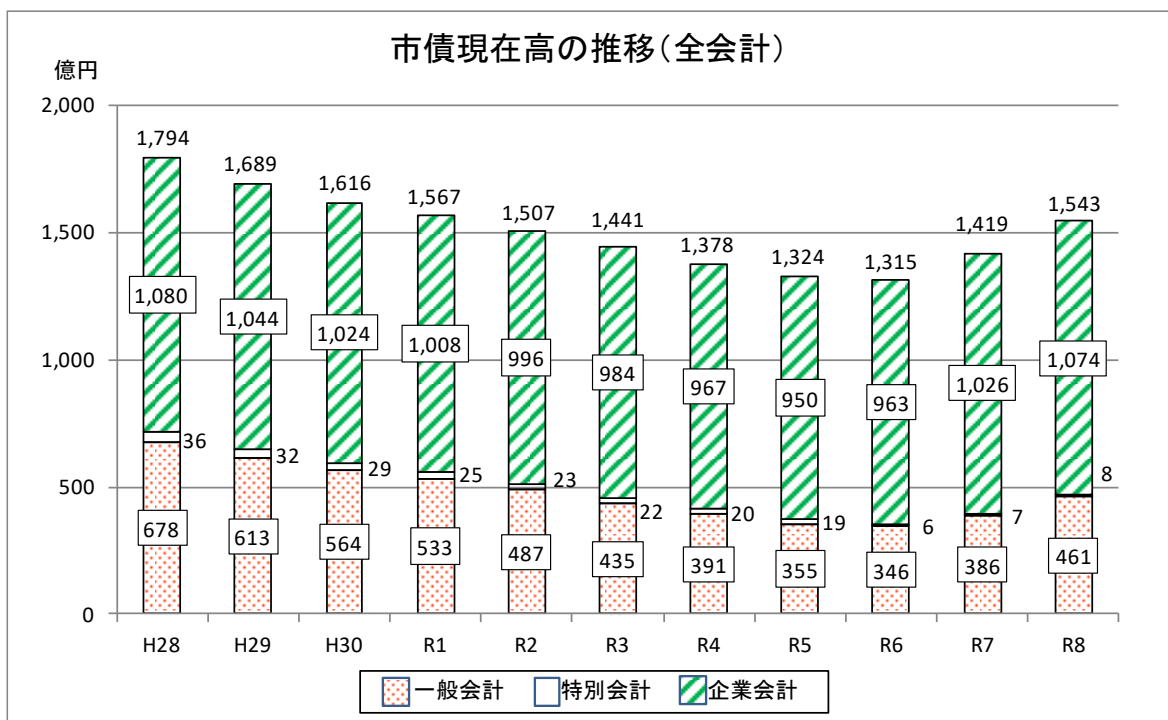
【参考資料①：施設整備を踏まえた今後の財政の見通しと大規模事業（見込）について】

(1) 主な大規模事業の実施について

(単位：億円)

年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7
大規模事業	← 現総合計画の期間 →					
	国体競技施設 H27~R3 174.5		中央通り再編 R4~R9 183.0			
	南消防署 R2~R5 10.2					
	高花平小改築 R3~R5 19.8			保健室空調 R6 16.6		
	給食センター R4 30.1			温水プール R5~R8 20.2		
年度	R8	R9	R10	R11	R12	R13
大規模事業	← 現総合計画の期間 →					
	中央通り再編 R4~R9 183.0		知と交流の拠点施設 R10~11 150.0			
			大学等拠点施設 R10~13 268.0			
	四日市ドーム改修 R9~11 65.3					
	橋北小改築 R9~12 22.9					

(2) 市債残高の推移及び主な基金の推移

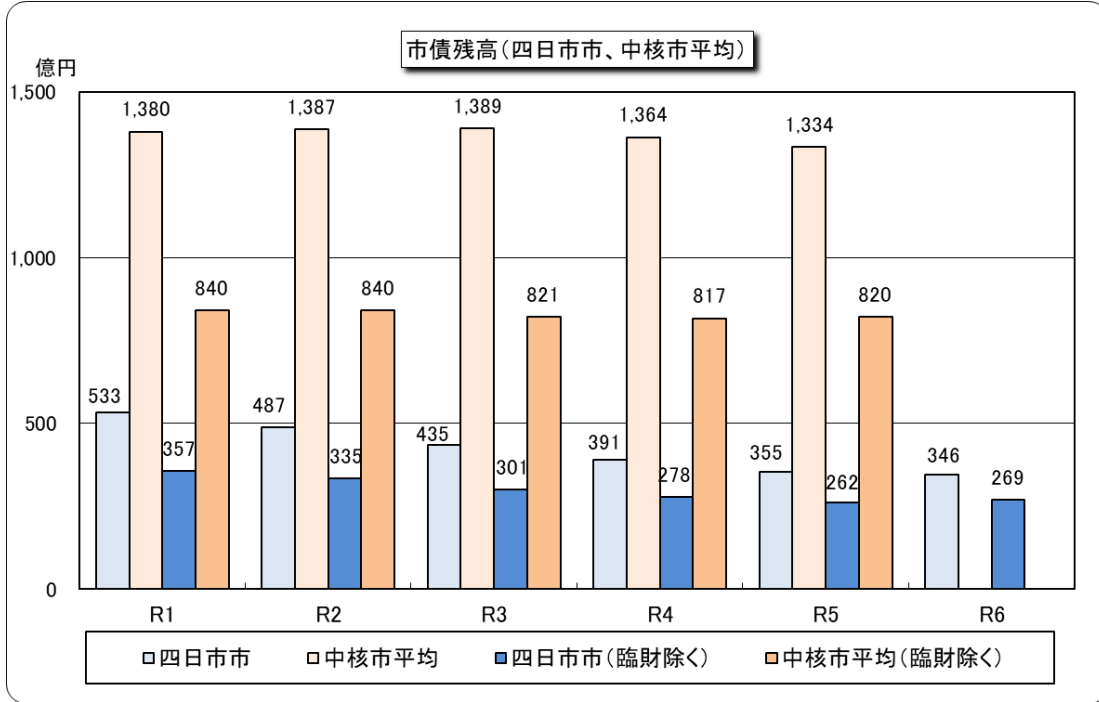


※令和6年度までは決算、令和7年度は令和8年2月補正予算後見込額、令和8年度は当初補正予算後見込額

## [本市と中核市平均の一般会計市債残高の推移]

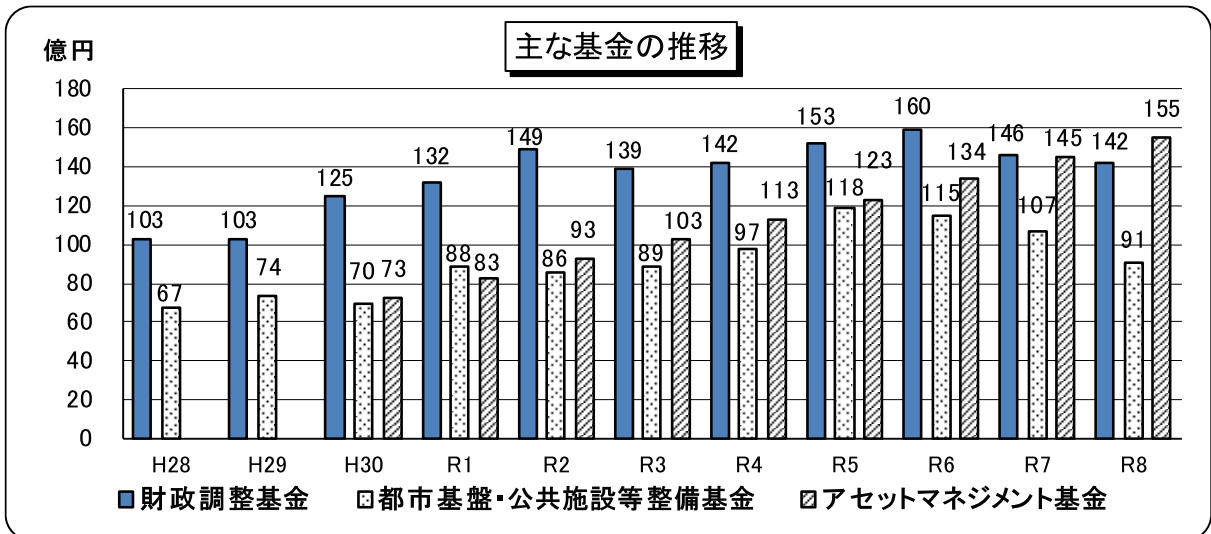
## ・一般会計市債残高

本市 346.4 億円 (R6 年度末)、269.3 億円 (R6 年度末・臨財除く)  
 中核市平均 1,334.2 億円 (R5 年度末)、820.4 億円 (R5 年度末・臨財除く)



## [主な基金の推移]

- ・財政調整基金 : 141.9 億円 (令和8年度末)  
 ※中核市平均 110.4 億円 (令和6年度末)
- ・都市基盤・公共施設等整備基金 : 90.7 億円 (令和8年度末)
- ・アセットマネジメント基金 : 155.4 億円 (令和8年度末)



※平成28～令和6年度までは決算額、令和7年度は令和8年2月補正予算後見込額、令和8年度は当初補正予算後見込額

本市の現在の財政状況や基金残高等を踏まえ、今後、知と交流の拠点施設や大学等拠点施設の整備について、現時点で想定する事業費が、本市の財政状況に大きな影響を与えるとは見込んでいない。

## (3) 今後の主な大規模事業（見込）について

総合計画に記載がある下表に記載の事業について、現総合計画の期間（令和2～11年度）では取組の検討を進めることとしている。

これらの事業については、令和12年度からの次期総合計画を策定する中で、それぞれの事業の基本的なあり方や方向性等を位置付け、事業期間や想定される概算事業費を試算し、実施計画である推進計画に反映させるとともに、中期的な財政収支の見直しも行う中で事業を進めていく。

事業名	概要
北勢地方卸売市場 関係事業	開設から40年以上が経過し、施設の老朽化対策が必要となっているため、過去に実施した調査の結果を用いて、関係3市で協議を実施する。
食肉センター食肉市場 施設整備事業	学識経験者と食肉関係者等で構成する「食肉センター・食肉地方卸売市場将来構想検討委員会」において、衛生対策の強化や多様化・細分化する市場ニーズへの対応等を踏まえた建て替えに加えて、畜産公社の持続可能な経営に向けた検討を実施する。
多様な機能を有する 道の駅検討事業	北勢バイパスの国道477号バイパスまでの開通を機に広域交通の利便性が高まる区域において、新たな企業立地や再編に必要な土地利用を誘導するとともに、道の駅についても必要となる機能の検討を進め、設置に向けて取り組む。
病院施設更新計画 検討事業	目標耐用年数を迎える令和20年度以降の新たな病院施設での切れ目のない運営を見据えて、病院施設更新計画の策定に向けた取り組みを行う。

※小中学校校舎等整備事業、公共施設アセットマネジメント事業については、資料から除いている。

※くすの木パーキングの復旧については、国による交付金を活用するとともに、災害関連経費であることから財政調整基金を活用する。

### 【参考資料②：建設投資に伴う経済波及効果】

#### （１）中心市街地再開発プロジェクトに係る建設投資に伴う経済波及効果

- ・中心市街地再開発プロジェクトにおいて、市と国、民間を合わせた建設投資額 783 億円～843 億円に対する経済波及効果は 1,096 億円～1,180 億円と分析している。
- ・市の建設投資については、国の補助制度を活用（新図書館と大学については想定）するとともに、知と交流の拠点施設（新図書館等拠点施設）の整備に対してイオングループ様から 10 億円の寄付をいただけることとなっている。

区分	建設投資額	（うち現在見込める特定財源を除いた市の負担額）	波及効果
中央通り再編事業【市】	183 億円	(115 億円)	256 億円
バスタ事業【国】	127 億円	—	178 億円
知と交流の拠点施設整備事業【市】 （新図書館等拠点施設整備）	120 億円 ～150 億円	(100 億円 ～130 億円)	168 億円 ～210 億円
大学設置【市】	248 億円 ～268 億円	(238 億円 ～258 億円)	347 億円 ～375 億円
大学設置と一体的な商業機能【民間】	105 億円 ～115 億円	—	147 億円 ～161 億円
合計	783 億円 ～843 億円	(453 億円 ～503 億円) (※1)	1,096 億円 ～1,180 億円 (※2)

（令和7年11月時点）

#### （２）中心市街地再開発プロジェクトに呼応した民間投資に伴う経済波及効果

- ・中央通り再編事業が本格的に動き出した令和元年以降、中心市街地においては、ホテル4棟、オフィス6棟、マンション31棟が着手又は竣工している。
- ・これらの民間事業では少なくとも、461 億円程度の建設投資があり、645 億円程度の経済波及効果があるものと分析している。

区分	建設投資額	波及効果
ホテル、オフィス、マンション	461 億円	645 億円 (※3)

（令和8年3月時点）

### （3）建設投資に伴う経済波及効果まとめ

- ・ 中心市街地再開発プロジェクトに係る現在見込める特定財源を除いた市の負担額 453億円～503億円（※1）により、1,741億円～1,825億円（※2+※3）の大きな経済波及効果が得られることとなる。



※中心市街地再開発プロジェクトの建設投資により得られる経済波及効果については、現時点で判明している民間投資を計上したものであり、引き続き、新たな民間投資が誘発されることで、より大きな波及効果が見込まれる。

### （4）その他税収への効果

- ・ 市の税収としては、（2）のホテル4棟、オフィス6棟、マンション31棟から得られる家屋の固定資産税・都市計画税として、80億円余の増収を見込んでいる。
- ・ これは、現時点で判明している民間投資を計上したものであり、今後も、引き続き新たな民間投資が誘発され、より大きな効果が得られるものと期待している。